

沼津高専だより

第106号

平成27年3月16日発行
独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



高専祭



1日体験入学



3年生 スキー合宿研修



高専祭



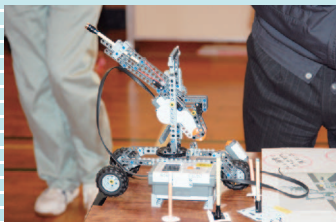
高専祭



1年生 ダーツロボット競技会



シアトル研修



1年生 ダーツロボット競技会



工場実習



2年生 ミニ研究発表会

題字：柳下福藏 学校長

目次

☆沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針	
☆校長・副校長・校長補佐から（平成26年度総評）	
技術者は未知の世界を創り出す	学校長 柳下 福藏 …… 4
沼津高専教育改革第2段階に	副校長（教務主事） 蓮 實文彦 …… 4
平成26年度を振り返って	校長補佐（学生主事） 大久保清美 …… 5
平成26年度を振り返って	校長補佐（寮務主事） 遠 藤良樹 …… 5
新専攻科の1年間を振り返って	校長補佐（専攻科長） 高野明夫 …… 6
☆各学科から（平成26年度総評）	
平成26年度末にあたって	機械工学科長 村松久巳 …… 6
平成26年度を振り返って	電気電子工学科長 佐藤憲史 …… 7
平成26年度を振り返って	電子制御工学科長 遠山和之 …… 8
平成26年度を振り返って	制御情報工学科長 藤尾三紀夫 …… 8
学科長1年目を終えて	物質工学科長 後藤孝信 …… 9
こつこつと努力する	教養科長 勝山智男 …… 9
☆国際交流室から	
海外研修プログラムへの参加状況と今後の展開	国際交流室長 鈴木久博 …… 10
☆部活動	
第49回「全国高等専門学校体育大会」成績一覧	11
第52回「東海地区国立高等専門学校体育大会」成績一覧	11
全国大会出場報告	
全国高専体育大会テニス競技に参加して	テニス部 高橋望史 …… 12
全国高専大会を振り返って	卓球部 泉谷勇季 …… 13
高専大会を振り返って	水泳部 渡辺麻彩 …… 13
☆行事・コンテスト・その他イベント	
●体育祭	
「参加すること」	体育祭実行委員長 神間峻介 …… 14
●高専祭	
Share the moment	高専祭実行委員長 松本 翔 …… 15
●3年スキー合宿	
将来を考える節目としてのスキー研修	3学年合宿研修担当 鈴木康人 …… 16
●ロボットコンテスト2014	
言葉に追いつく	ロボコン部顧問教員 青木悠祐 …… 17
～ロボコン部の挑戦～	
ロボコン部の軌跡	ロボコン部部长 鈴木莉子 …… 17
●その他イベント	
○東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト	
Trying Something New Makes a New Dot	制御情報工学科4年 後藤麻希 …… 18
スピーチを通して学んだもの	機械工学科3年 茶田 智来 …… 18
○第9回読書感想文コンクール	
読書感想文コンクールについて	国語担当 中園孝信 …… 20
○第8回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	
全国高専英語プレコン参加のご報告	英語担当 藤井数馬 …… 21
☆退職教職員から	
28年間の思い出、そして感謝	電気電子工学科 江間 敏 …… 21
☆卒業生・修了生から	
最後の学生生活を終えて	機械工学科5年 石川義基 …… 22
5年間を振り返って	電気電子工学科5年 加藤史也 …… 23
あまり食べられなかった私から	電子制御工学科5年 野村允春 …… 24
7年間の高専生活を振り返って	機械・電気システム工学専攻2年 川口直輝 …… 24
☆学生の研究活動（2014.4.1～2015.3.31）	
☆平成26年度卒業生・修了生進路先一覧	
☆教育後援会から	
卒業に際して	教育後援会会長 鈴木一洋 …… 30
☆同窓会から	
同窓会へようこそ	同窓会会長 木戸 実 …… 31
（卒業生、学生みんなのネットワーク）	
☆事務部から	
平成27年度前期分授業料の免除および徴収猶予について	31
沼津高専意見箱について	32
平成27年度（平成27年4月～平成28年3月）行事予定表	33
その他	
遠藤さんのこと	名誉教授 勝呂 讓 …… 34

沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身に付けている人
- 自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人

本科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専攻科

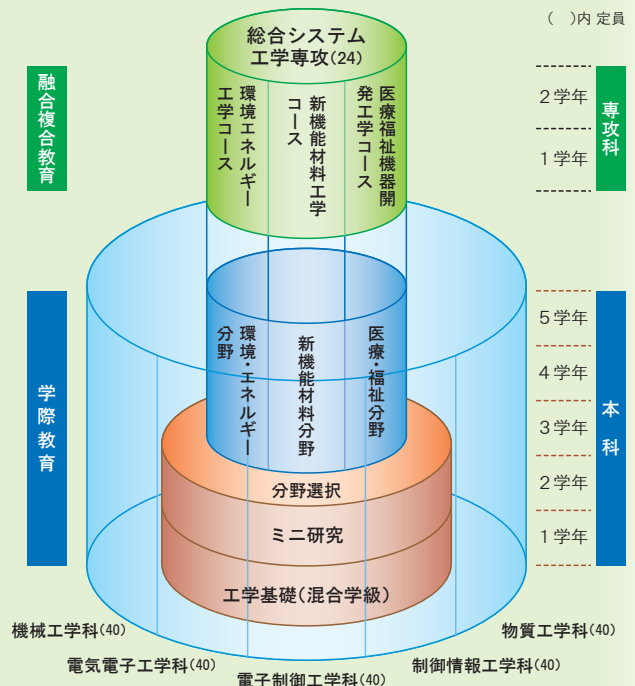
教育方針

融合複合領域の学際分野においてイノベーションを創出できる実践的・創造的エンジニアを育成するために、融合複合領域の専攻科実験、長期インターンシップによるエンジニアリングデザイン教育の実質化及び専攻科研究のマンツーマン指導などの教育方針のもとに以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- ①社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的思考力
- ②数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- ③工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- ④コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- ⑤産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢

本科の学際教育を深化する専攻科3コース



校長・副校長・校長補佐から（平成26年度総評）



技術者は未知の世界を創り出す

校長
柳下 福藏

平成16年度に独立行政法人化した国立高等専門学校は、第一期（5年）、第二期（5年）が経過し、平成26年度は第三期（5年）の初年度に当たります。沼津高専は第二期の前半に作成した産業構造の変化に対応する高専教育高度化のための新教育課程を平成24年度の新入生から適用開始して3年目が終わろうとしています。一方、専攻科は本年度から環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コースの3コースから成る「総合システム工学専攻（定員24人）」に改編して新たな技術者教育を開始しました。

このような沼津高専の教育改革は、本科5学科の工学基礎教育を基盤として、今後成長が見込める環境エネルギー分野、新機能材料分野、医療福祉分野でイノベーションを創出できる実践的・創造的技術者の育成を目指すものであり、7年一貫の技術者教育として全国的にも注目を集めています。

専門5学科・教養科の教員と技術職員が綿密に練り上げた1学年混合学級の工学基礎教育および2学年のミニ研究は過去2年間の教育実績に磨きをかけて粛々と進められ、3学年から始まる3分野（環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉）の学際科目は順調にキックオ

プしました。新専攻科1年生24名中の18名は企業で、6名は大学の研究室で後期4ヶ月（10・11・12・1月）間の長期学外実習に取り組んでいます。昨年12月2日に行った学外実習の中間報告を聴講したところ、各人が学校では得難い貴重な実務の体験をしている様子が伺え、企画した学校側としては予測した以上の成果が得られることを確信したところです。長期学外実習の成果を専攻科研究に反映させ、さらなる研究の深化を希望する諸君には大学院へ進学する道が以前より増して開かれています。

3月に卒業・修了して産業界に就職する諸君、高専専攻科・大学・大学院に進学する諸君、沼津高専で過ごした「若き日の五つ年」を糧に、人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応えていただくことを祈念します。

結びに、著名な工学者フォン・カルマンの言葉を紹介します。

「科学者は存在する世界を明らかにし、技術者は未知の世界を創り出す。創造こそ技術者の使命。」

【お知らせ】平成21年度～25年度の5年間、文部科学省科学技術戦略推進費を受託して実施した地域再生人材拠点プログラムの事後評価結果が文部科学省のHPに公表され、本校が実施した「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）」は最高の「S（所期の計画を超えた取組が行われている）」と評価されました。

平成20年5月に校長職を拝命して7年が過ぎ、本年3月31日付けで定年退職することになりました。皆様のご協力により毎日楽しい学校運営に取り組んで来れたことに深く感謝しております。母校沼津高専の益々の発展を祈念しております。



沼津高専教育改革第2段階に

副校長（教務主事）
蓮實 文彦

本年度は、平成24年度から始まった沼津高専版「高専教育の高度化」が次のステージに入った年でした。3年生には4月より「環境・エネルギー分野」、「新機能材料分野」さらに「医療・福祉分野」の3つの分野に関する「学際科目」が始まりました。この改革は、専攻科の改編と連動して行われ、専攻科も本年度、3つのコース（環境エネルギーコース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）を持った1専攻（総合システム工学）に改編されました。この教育改革により沼津高専の教育は、専攻科までの7年間一貫教育のシステムを持ったことになりました。

このような本校の取り組みに対し、文部科学省、高専機構より強力なご支援を頂き、6億4000万円にも上る最新鋭の教育・研究設備が整えられました。新たな教育研究機器の導入に伴い、これまでの「機械実習工場」は、医療・福祉分野の教育研究も行える「教育研究支援センター」に模様替えされました。加えて、3年間の臨時ながら2名の教員が増員になり、それぞれ学際分野でご活躍の研究者をお迎えすることができました。

一方、平成19年度より文部科学省の地域再生創出拠点の形成事業の採択を受けて行ってきた「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（略称 F-met）」が5年間の事業を終えました。1月7日に発表された文部科学省による事後評価は最高評価「S」でした。本年度、静岡県との要請と支援を受け、新たに全国高専初となる「特別課程」として自立化した事業として再スタートしました。県内各地から14名の社会人エンジニアを迎え、隔週の土曜日、夕方5時まで授業が行われています。このように、今年度も沼津高専は、次代や地域の要請に応えつ

つ進化しております。

さて、教務担当としてご報告しなければならない重要な問題が、留年・退学者です。年度を終えなければ確定することはできませんが、現時点では本科生の休学7名、退学者6名（1月1日現在）です。休学者数は昨年度比2名減です。しかしながら、低学年での数学の成績低下



平成26年度を振り返って

校長補佐（学生主事）
大久保 清 美

年度当初に私は、学生主事の最重要掌理事項は、学生の事故、メンタルヘルス、及び非遵行為に対する「リスク・マネジメント」であると書きました。

ほぼ一年経ってこれを点検評価してみると、登下校時の交通事故に関しては、原付事故が4件、自転車事故が5件で、数としては前年度とほぼ同じですが、学生の不注意による事故は減りました。ただ、事故には至っていないものの、近隣住民からの複数の苦情にもあるように、自転車の運転マナーの悪い学生が散見されます。交差点や道路への飛び出し、右側通行、無灯火運転等は絶対にしないでください。

メンタルヘルスについては、大変残念なことです。9月に寮で自殺者が出ました。これまでも「こころと体の健康調査」を行うなど、自殺予防には学校を挙げて取り組んできただけに残念でなりません。今回の件を受け早速、自殺予防体制の全般的見直しを図り、例えば寮でのカウンセリング機能強化のために寮監の勤務時間を変更するなど、新たな対策を盛り込みました。

非遵行為に関しては、残念ながら寮で1件、教室で2

が懸念されています。今年度もベテランの非常勤講師による低学年を中心とした放課後開講の数学補習授業、後期よりは、数学科教員団による何でも科目相談室が加わりました。専攻科生による勉強部屋も開催されています。本学生諸君の進級と卒業を祈って稿を終えます。本年度頂きましたご支援とご協力に深く御礼申し上げます。

件の現金盗難がありました。教室の2件については警察も入りましたが、未解決です。

クラブ活動については、卓球（男子団体・男女個人）、テニス（男子個人）、水泳（女子個人）が東海地区高専体育大会を勝ち抜き全国高専体育大会に出場、テニス男子シングルの部でC4の高橋望史君が見事準優勝に輝きました。また、全国高専プログラミングコンテストで、D科川上研チーム（D5高原一真君、野村允春君、山田知史君）が競技部門3位に入賞。東海北陸地区高専英語スピーチコンテストではESS同好会のS4後藤麻希さんが優勝、全国大会に駒を進めました。

この3年間、学生会に対して、体育祭や高専祭等での無駄遣いを改めさせ、経費節減を指導してきた結果、学生会費を減額しても運営できるめどがつかしましたので、来年度から、学生会費を現行の年額6,000円から5,000円に減額いたします。保護者の皆様はご承知おきください。

最後になりますが、2016年春卒業予定者から適用される、いわゆる「就職活動時期の後ろ倒し」への対応として、本校としては政府の方針通り、以下のスケジュールを厳守しますので、ご承知おきください。

- 3月1日：学生に対する企業からの広報活動開始
- 8月1日：学校推薦による企業からの選考活動開始
- 10月1日：企業から内定通知受諾

なお、これに伴い今年度から、「沼津高専就職祭」も従来の12月上旬から、3月上旬開催へと変更いたします。



平成26年度を振り返って

校長補佐（寮務主事）
遠 藤 良 樹

日ごろ寮運営にご協力、ご理解頂きありがとうございます。今年度もすばらしい寮生会の協力のもと期待通りの活躍をみせてくれました。

さて今年度の活動を簡単に振り返ってみます。

4月：26日親睦会、28日防災訓練を実施。
5月：寮祭を18日に開催しました。問題なく盛大に行うことができました。21日第1回教養講座を実施。
6月：長泉北中学習支援を開始。後期からは休日学習支援も実施しました。また11日から13日に富山高専の寮生

を本校学寮に受け入れ、交流を深めました。19日からは約一ヶ月にわたり棟別懇談会を開催し、棟顧問と棟3役との情報交換を行いました。

7月：12日夏祭りを実施。打ち上げ花火はさらに盛大になりました。

9月：12日～14日に夏季寮生リーダー研修を実施。昨年度天候不順のため実施できなかった防災訓練をかねた炊き出しを行うことができました。

ほかに木曜会（教員と寮生会との会議）を15回、朝礼を7回実施しました。以上が今年度の主な活動です。（1月現在）

終わりに、1年間学寮を支えて下さった寮務関係教員、寮務係職員、学生課職員、保護者の皆様、そして寮生会、全寮生に感謝致します。わたしは今年度で寮務主事としての任を終えることになりました。5年間ありがとうございました。



新専攻科の1年間を振り返って

校長補佐（専攻科長）
高野 明夫

8月より専攻科長を務めております。専攻科生の保護者の皆様には、日ごろより専攻科の教育活動にご理解ご協力を頂き、誠にありがとうございます。

専攻科には平成27年1月現在で1年生25名、2年生20名の計45名が在籍しています。本年度の入学生より従来の3専攻体制から1専攻3コース体制へ教育課程の改編が行われました。実験設備を充実させると共に、入学定員を20名から24名に拡充し、環境エネルギー工学コースに5名、新機能材料工学コースに9名、そして医療福祉機器開発工学コースに10名の新入生を迎えて本年度はスタートしました。

新課程では、後期の10月から1月までの約4か月間、1年生に長期インターンシップが課されます。今年は近隣企業・団体に14名、大学・研究機関に10名の学生が配属され、12月には学校で中間報告会が開催されました。2月には最終報告会が開催されますが、最終報告会では、配属先だけでなく近隣の商工会議所、信用金庫、企業の皆様に開催案内を出すと共に、学生の報告要旨を冊子にまとめて発行する予定です。このような充実した実践的工学教育は、皆様のご協力がなければ成り立ちません。誠にありがとうございます。今後ともご協力頂けますようお願い申し上げます。

また、今年も高専機構主催の海外インターンシップに

1名の学生が参加しました。参加したのは1年生の鈴木克真さんです。8月に1週間の国内研修を経た後、9月1日から2週間、中国上海の堀場製作所に派遣されました。9月24日には海外インターンシップ報告会を開催しております。

2年生の進路については、20名全員の進路が決定しています。就職内定者は9名（日本テトラパック、日立ハイテクフィールドディング、東燃ゼネラル、南部化成、東芝キャリア、日医工ファーマテック、セイコーエプソン、富士電機、東芝機械）で、大学院への進学者は11名（横浜国立大、筑波大2名、電気通信大、東京医科歯科大、東京工業大2名、東京大、東北大、立命館大、長岡技術科学大）です。1月には、キャリア支援室による2年生を対象としたキャリア支援特別講座「労働法の基礎知識」を開催しました。

創造的実践的技術者の育成を目指して船出した新生専攻科ですが、皆様のご協力でなんとか初年度を乗り切りつつあります。

今後とも沼津高専専攻科をよろしく願っています。



各学科から（平成26年度総評）



平成26年度末にあたって

機械工学科長
村松 久巳

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、機械工学科における教育・運営にご理解ご協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。11月4日に開催しました学科説明会には多数の参加をいただき感謝申し上げます。機械工学科の進路指導の状況について説明します。はじめに5年生の進路について報告します。大学編入学では大阪大学、東京農工大学、豊橋技術科学大学、富山大学等の機械系学科の合格を得ました。また本校専攻科には新機能材料コースと

環境エネルギーコースに進学します。就職活動においては、景気低迷からの回復傾向を受けて求人件数が106件増加し、本年度574件の求人がありました。トヨタ自動車株式会社、ヤマハ発動機株式会社、川崎重工株式会社、出光興産株式会社、DMG森精機株式会社、東芝機械株式会社、株式会社電業社機械製作所、浜松ホトニクス株式会社、株式会社リコー、Meiji Seika ファルマ株式会社などが内定を得ている企業です。

つぎに4年生は10月1日から2泊3日で工場見学を行いました。ヤクルト本社富士裾野工場、株式会社JALエンジニアリング、三菱重工業株式会社、新日鐵住金株式会社、JX日鉱日石エネルギー株式会社、東プレ株式会社に出向き、生産活動の現場を見学し、卒業生による話をいただきました。さらに就職懇談会を12月2日に実施しました。株式会社明電舎、JX日鉱日石エネルギー株式会社、株式会社エフ・シー・シー、日産自動車株式会社、

THKリズム株式会社から機械工学科の卒業生を本校に招き、企業での仕事、就職に対する心構え、学生時代に取り組んでおくことなどについて講和いただきました。1月に進路希望の調査を行い、方向づけ・候補の絞り込み等を経て、三谷教員・山中教員とともに就職活動の具体的な方策を検討します。加えて来年度の就職協定の期日変更に伴い、就職活動の新たな取り組み等が予想され、準備に関する指導を一層厚くしていきたいと思ひます。

3年生と2年生に対して、大学編入学予定と就職予定



4年生 工場見学

の5年生が進路や学業に関する講話を12月5日に行いました。上級生と下級生の間で質疑応答が活発に行われました。

最後に2月5日から開始される学年末試験において全力で取り組み、自己ベストを達成し、実力と自信をつけて卒業・進級していただきたいと思ひます。保護者の皆様には一層のご支援とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。



中学生のための体験授業



平成26年度を振り返って

電気電子工学科長
佐藤 憲史

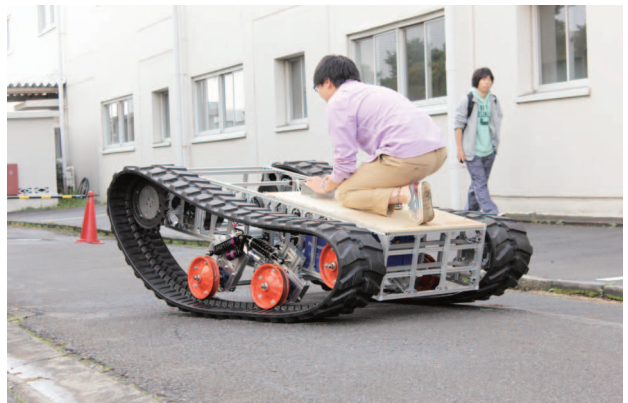
日頃より、電気電子工学科の教育・研究にご理解とご支援を賜り、感謝申し上げます。今年度は3年生から「学際教育」の授業が始まり、沼津高専の高度化に向けた改編が順調に滑り出しました。電気電子工学科では、従来から電力などいわゆる強電関係の教育を充実させていますが、情報通信や電子材料はじめ多彩な専門教育を実施しています。地球温暖化問題など、今後、広い視点に立った科学技術の推進がますます重要になります。環境問題の解決に寄与し世界で活躍できる人材育成を目指しているところです。

今年度の電気電子工学科の進路状況について、簡単に記させていただきます。本科5年生は40名おりますが、就職希望者が17名、進学希望者が23名でした。就職については、求人票を受け取った企業数が592社に上り、131社からご訪問をいただきました。これは昨年度より増加しており、企業の採用状況が順調に回復していることがうかがえます。このような中、就職希望者全員が内定をいただきました。就職予定の企業は、電力などの強電関係、製薬、食品関係を含め、広範囲にわたっています。進学では、現在も活動中の2名を除く21名が進学先を決め

ています。進学校は、北大や東工大、名古屋大などの有名大学はじめ、全国の大学と沼津高専・専攻科です。平成27年度から就職における企業の採用活動が8月解禁（これまでは4月解禁）となり混乱が予想されます。現4年生を中心にして、進路に関する指導を徹底し準備しているところです。

昨年度末に4年生を中心として学科プロジェクトを立ち上げ、「移動ロボット」の製作にチャレンジしています。昨秋の高専祭では、試作第1号機をデモすることができました。その他の行事を含め、学科のホームページ(<http://www.denki.numazu-ct.ac.jp/>)で紹介していますのでご覧ください。

以上、今年度を振り返って学科の概要を述べました。沼津高専と当学科が中学生にとって魅力ある進路先になっているか、学科として常に気にかかるところです。周囲



高専祭E科プロジェクト

の方々に高専の特徴や進路状況などお話しいただければ幸いです。我々も、いろいろな活動を通して高専の魅力を発信していきます。電気電子工学科の教育・研究の充

実と発展を目指して、教員一同全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



平成26年度を振り返って

電子制御工学科長
遠山 和之

今年度も、電子制御工学科の教育・研究にご理解・支援を頂き、保護者の皆様をはじめ、関係各位に感謝します。平成24年度入学生から学際教育が始まり既に3年が経過しましたが、この学際教育に対応して、D科のカリキュラムを見直しております。来年度は「工学技術セミナー」と「電気回路」の開講年次を入れ替え、電気回路系の4つの授業、2年次「電気回路」、3年次「回路理論」「電子回路」、4年次「線形回路」に連続性を持たせます。また、「工学技術セミナー」で「テスター製作」を行い、半田付けから抵抗のカラーコードの読み方など低学年で身につけるべき電気関係の実習を充実させます。各自が製作したテスターは、3年次以降の工学実験や電子機械設計製作等の実習で用いることになります。

今年度は若手教員の提案で防災訓練直後にD科学生および教員全員が講義棟横の階段に集合し、D科棟をバックに集合写真を撮影しました。初めての試みでしたが天候に恵まれたこともあり素晴らしい集合写真を撮影することができました。本年度より本校学校名の英語表記が(独) 国立高等専門学校機構全体で統一表現となったことから、“National Institute of Technology, Numazu College”

となりましたが、学科名も“Electronic Control System Engineering”に変更しました。

今年度の卒業生の進路は、卒業予定者35名のうち、大学進学8名(横国大、豊技大3名、千葉大3名、大阪大)、沼津高専専攻科10名、就職17名(日立建機、国立印刷局、フリーダム、キャノン、THKインテックス、明電システムソリューション、NTTコムS&E、コンチネンタルオートモーティブ、ダイキン工業、シチズン電子、明電舎、東レ、NHKメディアテクノロジー、村田機械、エミック、勝亦建築工業)でした。求人社数は498社と過去10年で最高でした。また、D科出身の専攻科生の大学院進学は6名(東京大学、東工大、筑波大学2名、東北大学1名、電通大1名)でした。大学院進学を考える際、本校専攻科への進学をご一考いただければと思う次第です。

昨年9月30日付で出川先生が長岡技科大に異動し、その後任に10月1日付で小谷先生が、昨年度末に東京農大に異動した江上先生の後任に本年4月1日に1名の教員が着任予定です。昨年4月1日付で舟田名誉教授の後任として着任した大林先生を含めるとD科は、この1年間に3名の先生が着任したことになります。また、4月にオープンしたD科クリエイティブ・ラボも順調に稼働しております。

以上、簡単ですが今年度の報告とさせていただきます。来年度もD科教員一同、学生の教育に全力で取り組んでいきますので、保護者の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成26年度を振り返って

制御情報工学科長
藤尾 三紀夫

4月に学科長を拝任し、右往左往しながらも初めての学科運営に努めて参りました。まだまだ到らない点が多々あったとは思いますが、皆様のご支援とご協力を賜ることで、年度末を迎えることができました。改めてお礼申し上げますと共に、深く感謝申し上げます。

さて、この紙面をお借りして制御情報工学科の平成26年度を振り返ってみたいと思います。まずは卒業予定者41名の進路についてです。就職活動では、1回では決まらない場合もありましたが、7月初旬までに2回以内で希望者15名の全員が内々定を獲得しました。就職は学力より人間力が問われますので、4年生の諸君には今から

準備を始めて欲しいと思います。進学に関しては進学希望者24名が国立大学または専攻科の合格を勝ち取りました。なお、やりたい夢に目覚め、合格した進学先を辞退して分野を変えて来年受け直す学生が1名、進学から就職に変更した学生が1名おります。また1名の学生は夢をかなえるため、アルバイトからチャレンジを始める予定です。学生諸君が将来を熟慮して選んだ道ですので、ぜひ夢を実現して欲しいと願っております。

学科イベントとして、11月に学科説明会を開催させて頂きました。121名という多くの保護者の方にご参加頂き感謝申し上げます。学科紹介から進路の報告だけではなく、現役学生の活動報告も聞いて頂きました。また、制御情報工学科で最も力を入れている科目である創造設計の成果物も披露させて頂き、学生の様子もお伝えできたかと思っております。今年も創造設計では様々な面白い製品ができあがっていますので、来年の学科説明会にご期待ください。あわせて12月には、3・4年の学生諸君に就職懇談会を開催し、現役学生から熱いメッセージを伝えても

らいました。同時に卒業生（OB）の5名にも来学頂き、仕事内容や今何をすべきかを学生に話してもらいました。その中で、ものづくりのグローバル化が進み、英語力の必要性を訴えていた事が印象的でした。一方で、たくましく、そして立派になり、堂々と説明するOBを見て本当に感慨深いものがありました。



学科長1年目を終えて

物質工学科長
後藤孝信

今年度も物質工学科の教育・研究にご支援をいただき、保護者の皆様をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。お陰様で学科長1年目を無事に終えることができました。

4月に物質工学科への入学生43名を新たに迎え、2年生42名、3年生47名、4年生44名、5年生40名の大所帯で今年度もスタートしました。混合学級であるため、1年生は物質工学科の専門科目を少し物足りなく感じたことと思いますが、2年生からは学科ごとのクラス編成となり専門科目が増えますので、進級の際には心を新たに入学時の気持ちで授業に臨んで欲しいと思います。

1年生は4月に御殿場合宿研修、2年生は10月に日本未来技術館への研修旅行、3年生は1月にスキー合宿研修、4年生は10月に関西方面の工場見学と、それぞれの学年で行事がありました。これらの研修や見学を糧とし、学生個々が一人前の技術者となる力を身に付けて卒業していくことを物質工学科の教職員一同は切に願っております。

5年生については、進路をご報告させていただきます。

このようなOB（学生）を育てるため、これからも制御情報工学科スタッフ一同、研鑽を積み、「学生の夢の実現」の支援に邁進していく所存です。保護者の皆様には今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を頂けますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

5年生の就職希望者は12名、進学希望者は28名でした。就職については、7月半ばに進路変更する学生が出てきて対応に追われる事態もありましたが、高専OBの方々の力量が高く評価されていることもあり、9月上旬には全員内定を勝ち取ることができました。一方、進学においても、大学における本校卒業生の評価は高いことから、希望者のほぼ全員が大学進学を決めています。増税による消費の落ち込みが懸念され、アベノミクスの経済効果が明確でない状況においても、高専卒業後の進路は多彩で良い状態にあると言えます。これも学生達の努力に加え、保護者の皆様とOB諸氏の支えがあつての実績と心より感謝しております。しかしながら、企業が生産の拠点を海外に移転している社会情勢を考慮すると、今後も就職活動は厳しいと予想されます。現状に慢心することなく、物質工学科のさらなる発展を教職員一同で築いて参りたいと思いますので、保護者の皆様におかれましては、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、学科教員の移動について報告します。平成24年度に物質工学科に赴任されました山田教授がこの3月をもって退職されます。そして長年物質工学科を支えてくださいました技術室職員の雨宮博さんが再雇用を終えて本校を去られました。物質工学科一同、感謝申し上げます。また、4月より藁科先生がカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校に1年間研究出張されます。気持ちを新たに新年度を迎えたいと思います。



こつこつと努力する

教養科長
勝山智男

早いもので、沼津高専に着任して13年が経ち、定年退職までわずかな年数を残すのみとなりました。この間、長い間続けてきた仕事に、学習支援活動があります。成績が芳しくない、日ごろの勉強方法がわからない、授業についていけないなど、学習に困難を感じている学生に対する支援です。こうした学生のほとんどが、中学時代には成績がよかったのに、高専に来てから勉強方法がわからなくなったり、授業の早い進行に戸惑ったりしているのです。中学校ではあまり難しい問題はやらなかった

し、塾では周到に用意されたドリルをやってきたようですが、高専に入学すると、何をどれだけ勉強するかを自分で決めて実行しなくてはなりません。面倒な課題をあとまわしにしたり、他の楽しいことを先にやってしまったりしているうちに、勉強は遅れ、わからないところは雪だるま式に膨れ上がり、自信もなくなる・・・。

こうした困難に直面している学生に、「わからないところを教える」式のいわゆる補習はあまり効果があがりません。勉強の方法を確立し、自分に合った勉強スタイルを身に付けさせなくてはなりません。そのうえで、勉強する習慣をつけるようにもっていきます。そのためには、学生の話をつきと聞きとるところからはじめて、本人に合った学習方法を一緒に考えるようにします。自分で納得できる勉強スタイルをいっしょに検討していくのです。

早い時期にこうしたアドバイスを受けて徐々に成績が回復した学生もいます。一方で、何をすればよいのかわ

かっているのに、しかもそれは決して困難ではないはずなのに、実行できなくなる学生も少なからずいます。遅れた勉強を回復するには時間が必要です。じっくり取り組んでいれば、少しずつ改善してゆくはずなのですが、成果がすぐには現れないので、いやになってしまったり、あきらめてしまったりするのでしょうか。成果が見えなくてもコツコツと努力し続けるかどうかが、勉強に躓いたときに回復できるかどうかの鍵であるように思えます。

高専の学習に限らず、人生に困難はつきものです。それを何度も乗り越えて成長するのです。言い古された言葉ではありますが、コツコツと努力を続けられる人が大成するのだと、つくづく思います。

最後になりましたが、今年度は教養科で退職される教員はおりません。教養科教員一同、来年度も引き続き学生の教育に「コツコツと努力してゆく」所存です。どうぞよろしく願いいたします。

国際交流室から



海外研修プログラムへの参加状況と今後の展開

国際交流室長
鈴木 久博

急速にグローバル化する社会の中、幅広い知識ともの見方、そして十分なコミュニケーション能力を備えた技術者が求められています。そのような中、今年度も高専機構および本校が提供する海外研修プログラムに、学生の皆さんが果敢に参加しました。

8月には、シンガポールのポリテクニクが高専生のためにカスタマイズした約2週間の英語キャンプ（熊本高専主催）に2年生1名が参加しました。

9月には、機構本部が主催する海外インターンシップに専攻科生1名が参加、京都に本社をおく堀場製作所の上海工場での約2週間研修を受けました。機構本部主催の海外インターンシップは春にも行われますが、そこにも本科5年生1名が参加する予定です。

また、8月末から9月中旬にかけての2週間、毎年恒例となった本校独自の米国シアトルでの異文化体験&語学研修を実施しました。学生の皆さんの意識が高く、かなり早い段階で希望者が定員の15名に達しました。ホームステイをしながら、午前は語学学校でレベル別に分か



シアトル研修

れて英語の研修に励み、午後にはシアトル市内や近郊の名所を訪れました。自分の考えをはっきりと伝える必要がある海外での生活、おとなしい日本人とは対照的に、文法は間違っても積極的に発言する他国籍の学生たちの姿勢、そして日本人とは違うアメリカ人の価値観に驚きと刺激を受けた日々だったようです。



11月には専攻科2年生1名が、高専機構主催のISTS（国際シンポジウム）に参加しました。これは高専生、特に専攻科生が国際学会で自らの研究成果を英語で発表するもので、今年度は台湾で開催されました。

なお、今年度は諸事情により、例年参加している富山高専主催の英国北アイルランドでの国際インターンシップへの参加は見合わせました。来年度からは専攻科2年生を対象に募集を再開したいと考えております。

今後、学生の皆さんが海外研修を受ける機会をさらに増やすことが望まれます。その意味では昨年度視察に訪れたタイのキングモンクット工科大学ラカバン校での研修が一つの可能性として挙げられます。また、海外の他大学と本校独自に協定を締結することも重要であり、その可能性についても前向きに検討してゆきたいと思えます。

若いうちに学生の皆さんが一度は海外を訪れ、グローバル人材としての素地を養うことができるように引き続き努力してまいりたいと思えます。

部 活 動

第49回全国高等専門学校体育大会

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
テニス	男子個人の部 シングルス	2位	C 4	高橋望史	
卓球	男子団体の部	3位決定 トーナメント敗退	—	—	
	男子個人の部 シングルス	3位決定 トーナメント敗退	C 3	桑原康介	
	男子個人の部 ダブルス	予選敗退	D 5 C 3	泉谷勇季 桑原康介	
	女子個人の部 ダブルス	3位決定 トーナメント敗退	C 3 E 3	村松歩香 本多由佳	
水泳	女子50m背泳ぎ	6位	1-4	渡辺麻彩	
	女子100m平泳ぎ	5位	1-4	渡辺麻彩	



高専大会壮行会

第52回東海地区国立高等専門学校体育大会（入賞者・入賞団体）

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
陸上	女子800m	3位	1-2	藤田京花	
テニス	女子団体の部	1位	—	—	
	男子個人の部 シングルス	1位	C 4	高橋望史	
サッカー	団体	2位	—	—	
バレーボール	女子団体	2位	—	—	
剣道	男子団体戦の部 (全国大会予選)	2位	—	—	
	男子個人戦の部	3位	D 5	川上 洸	
卓球	男子団体の部	1位	—	—	
	女子団体の部	1位	—	—	
	男子個人の部 シングルス	1位	C 3	桑原康介	
	男子個人の部 ダブルス	1位	D 5 C 3	泉谷勇季 桑原康介	
	女子個人の部 シングルス	2位	C 3	村松歩香	
	女子個人の部 ダブルス	1位 3位	C 3 E 3 D 4 C 2	村松歩香 本多由佳 佐野友里花 堤 瑛智代	

競技名	種目名	成績	クラス	氏名	備考
水 泳	女子総合	2位	—	—	
	女子50m背泳ぎ	1位	1-4	渡辺 麻彩	
	女子100m平泳ぎ	1位	1-4	渡辺 麻彩	
	女子200mリレー	2位	1-4 C 5 D 2 C 3	渡辺 麻彩 渡辺 彩夏 今野 瑤心 木 下 真優	

全国大会出場報告

全国高専体育大会テニス競技に参加して

テニス部 物質工学科4年
高橋 望 史

私は本年度愛知県名古屋市で行われた東海地区高専大会において昨年度に続き個人シングルスで優勝しました。東海地区大会で優勝したことで香川県高松市で行われた全国大会へも出場する機会を得て、準優勝することができました。

男子シングルス一回戦では近畿地区代表の神戸高専の大原孝慶選手との接戦の末9-8で勝利する事ができました。二回戦目は中国四国代表の阿南高専の村口巧選手ともスコア以上の接戦の末8-6で勝利しました。三回戦準決勝では関東信越地区代表の川上哲選手と対戦しました。川上選手とは他高専でありながら試合以外でも話をするような仲で、私が一年生の時から関東地区の高専大会に参加してから毎年対戦して切磋琢磨してきた友人でした。序盤は先の二試合の疲れがでておされましたが、その後巻き返し8-4で勝利しました。決勝は去年の優勝者でインターハイにも出場経験のある旭川高専の村上幹選手と対戦しました。決勝は圧倒的な村上選手のパワーの前にゲームカウント1-6、0-6の0-2で敗北しました。

この全国大会に顧問の川上先生、ヒッティングパートナーとしてC2の増田裕君、そして個人的に高松市まで



試合を応援しにきてくれたE2の上柳舞弓花さん、1-1の山本翔英君の二人についてきてもらえました。川上先生には香川までの交通、現地で不都合のないように手配していただきました。またヒッティングパートナーの増田君には私の試合に必要な荷物、現地でのヒッティングパートナーとして支えてもらい、個人的にきてくれた上柳さん、山本君にも荷物などをもってもらったり、試合を応援してもらったりと何かと支えてもらいました。試合前はこんなにもいろいろしてもらい、個人的にまで来てもらい一回戦で負けてしまったらどうしようと考えてナイーブになっている私に気負わないように声をかけてくれたりと精神面でもとても強く保つことができました。



今回の全国大会で私は引退し、私の高専でのテニスは終わりましたが、今大会にきてくれた三人には全国がどんなものなのか、そしてどのくらいの強さなのか理解してもらえたと思います。まだ三人は二年生以下でありテニスをするには時間があります。今回知り得たことを他の部員と共有しそれに向かって日々練習に打ち込んでくれたらと思います。またテニスではみんなの目標となり、テニス以外の行動でも目標とされる存在になれるようになっていきたいです。

最後に、本大会に関して応援して下さったテニス部の仲間、先生方、学生係をはじめとする職員の皆さん、そして一生懸命応援して下さった東海地区高専のテニス部部員に感謝します。また、本大会出場に関してご援助いただきました教育後援会と同窓会に御礼申し上げます。

全国高専大会を振り返って

卓球部 電子制御工学科5年
泉 谷 勇 季

本年度、私は豊田市で開催された東海地区高専大会卓球競技において、男子団体と男子ダブルスで優勝し、この2種目で全国高専大会に出場しました。結果は男子団体では3位決定戦敗退、男子ダブルスは予選リーグ敗退でした。

3年生での東海地区高専大会では男子ダブルスで決勝まで進んだものの負けてしまい、とても悔しい思いをしたことを今でもよく覚えています。その2年後の今年度では、競った厳しい試合でしたがダブルスと団体戦で優勝し、遂に全国高専大会への切符を手にすることができました。8月末、会場の愛媛県松山市総合コミュニティーセンターに入ると、東海とはまた違った雰囲気を感じました高揚しました。団体戦では予選リーグを2位通過し、3位決定トーナメントへ進出しました。次の試合は、私の勝敗でチームの勝敗が決まる展開となりましたが何とか勝利し3位決定戦へ進出。茨城高専と対戦しましたが、

残念ながら敗退しました。ダブルスでもあと少しの試合を取れず、予選リーグ通過ならず、私にとって最後の高専大会が終わりました。入賞はできなかったものの、前は遠いと思っていた全国高専大会出場を果たし善戦できたことは、とても良い貴重な経験となりました。特に団体戦で優勝し皆で全国高専大会へ出場できたことはとても大きいです。

平常の部活動での練習時間は長くないため、いかに練習内容を濃くするかが大切です。そこで私は、何を意識すべきか考え実行すること、先生やOB、社会人の方から頂いたアドバイスを取り込むことを練習の中で行ってきました。なかなか成績が残せず苦労したことも多かったです。諦めずに努力を積み重ねて最後に成績を残すことができたのは大きな自信となりました。この部活動で学んだことを忘れず、今後の人生へ大いに活かしていきたいと思います。

最後に、本年度の全国高専大会に出場することができたのは、共に練習に励んできた卓球部員や貴重なアドバイスをしてくださった卓球部顧問の稲津先生、その他多くの方の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

高専大会を振り返って

水泳部 物質工学科1年
渡 辺 麻 彩

私の水泳部としての活動は、4月13日に行われたプール清掃から始まりました。新しい先輩方に囲まれ、これからお世話になるプールをデッキブラシで磨いたのを今でも覚えています。

プール開きは5月半ばでした。このころの水温は17度。泳ぐたびに体温が奪われ、思うように体が動きません。6月、梅雨に入り雨が降っても水泳部は泳ぎ続けました。練習量が増えると少しつらいです。そのかわりに部活の時間はとても充実したものになります。そして、7月5日と6日に沼津高専で東海地区高専大会が行われました。初めての高専大会で驚いたのは会場の一体感でした。大会では誰もが全力で泳ぎ、全力で応援していました。自分のチームの選手が泳ぎ終わっても、最後の1人がゴールするまで応援は止みません。泳ぎ終わると拍手まで起る、そんな雰囲気にとっても感動しました。

私は50m背泳ぎ、100m平泳ぎで優勝し、目標であった全国大会の出場権を得ることができました。香川県で行われた全国大会では、2種目とも決勝に進出することができましたが、表彰台には届きませんでした。敗因は自身のメンタルの弱さと、1日に予決の計4レース泳ぐ体力を準備できなかったことにあると思います。なぜもっ

と練習しなかったのか、どうして、なんで、と悔しさでいっぱいでした。

今年も、水泳のシーズンがやってきます。約4ヶ月という短いシーズンを有意義に過ごし、選手としても、人間としても大きく成長してまたリベンジしたいです。1年の活動を振り返ると全国の舞台で泳げたのは寒い中でも、雨の中でも継続して練習できたからだと思います。また、それができたのはチームメイト、顧問の先生方、寮に帰ると声をかけてくれる相方をはじめとした周りの皆さんのおかげです。たくさんの「頑張れ」「お疲れ様」の声が私の中で活力になりました。本当に感謝しています。

最後に、次の水泳部の目標は高専大会で男女総合順位ワンランクアップです。これからもみんなで楽しく泳ぎ、一緒に速くなりたいです。そして、あと一步で優勝に届かなかった200m女子フリーレーでも全国に行きたいです。そのため、チームに少しでも貢献できるよう、“サポート”をも出来る選手になりたいです。



行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

「参加すること」

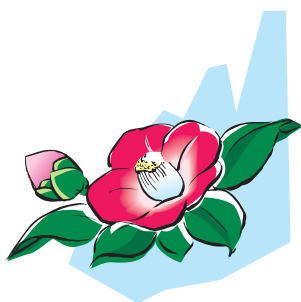
体育祭実行委員長 電子制御工学科4年
神間峻介

今年度、体育祭実行委員長を務めさせていただきました、電子制御工学科4年神間峻介です。今年度の体育祭もこれまで通り、前期と後期で、あわせて2回開催しました。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、沼津高専の体育祭はいわゆる運動会ではなく、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ドッジボール、ハンドボール、フットサルをトーナメント方式で行う球技大会です。今年は、前期の体育祭は通常通り行えましたが、後期は雨天のため、体育館でのドッジボール大会となりました。例年は、どの競技もトーナメントの上位を高学年が占めていましたが、今年は低学年も強く、1年生が優勝候補を破る金星などもあり、大変盛り上がる大会となりました。そのため、例年になく活気ある体育祭になったと思います。普段の学校生活では運動と縁のない学生が多いですが、体育祭に参加し、思う存分体を動かすことで、心身ともにリフレッシュすることができ、楽しめたと思います。



委員長という仕事を通して、私は、長として判断・指示をすることは難しく、その責任はとても重たいことを実感しました。事前準備には計画性、当日のトラブルの対応には迅速で柔軟な対応が求められました。特に当日のトラブルに対しては、事前に予測することで回避したり、迅速に対応できたりしました。このことによって体育祭の運営を、ゆとりを持って、スムーズな運営を行い、楽しい体育祭になったと思います。これらの経験は日常生活では得ることのできないもので、体育祭実行委員会に参加し、委員長に挑戦したからこそ得られた貴重な経験です。

まだ、課題の多い体育祭実行委員会ですが、学生、教員の積極的参加を促し、誰もが楽しめる体育祭運営をできるように、これからも意見の収集、仕組みの改善に努めていこうと思います。最後に、学生係や関係教員のみなさま、体育祭運営へのご協力、本当にありがとうございました。来年度以降の体育祭も、ご協力お願いいたします。



高 専 祭

Share the moment

高専祭実行委員長 物質工学科5年
松本 翔

第49回高専祭のテーマは「Share the moment」でした。このテーマには、一度しかない第49回高専祭に参加した全員で楽しみ、思い出に残るものにしてもらいたいという実行委員会の想いが込められています。私自身にとって高専祭準備期間や本祭、その後の活動すべてが、とても充実したものでした。

私は4年生までの間、高専祭の運営を円滑に進めるように活動する「本部」とは違う部署で高専祭を支えてきました。そのため、今回、高専祭実行委員長の話が振られたときに、当然驚きました。昨年度の実行委員長が私の知り合いであったこともあり、実行委員長になることを決めました。更に、今年度は顧問の先生も変わり高専祭実行委員会は新しい雰囲気ですスタートを切りました。

今年度の高専祭実行委員会は例年に比べ、委員同士の仲が良く、またそれぞれが高専祭を精一杯盛り上げようとする意識の高い学生が集まってくれました。実行委員長として右も左も分からない私を助けてくれたのもやはり実行委員たちでした。顧問の先生と実行委員のおかげ



で私は少しずつ実行委員長としてやるべきことがわかっていきました。今年の実行委員会では新しい試みが沢山のされました。そのすべてが成功したわけではありませんが、来年度以降も自分たちで考えたものに対してどんどんチャレンジしていてもらいたいと思います。

今年度の活動を振り返ると多くの人に迷惑をかけ、卒業研究と高専祭の準備の両立が難しく、くじけそうになったこともありましたが、しかし、後輩たちと仲を深めたり、人脈の輪が広がったり、私自身、とても成長できたと思います。私はこれまで寮生会や学生会などで様々な役職についてきました。高専祭実行委員長は其中でも一番やりがいのあるものだったと思います。多くの人をまとめるためには、先を見据えてしっかりとマネジメントすることが必要であると感じました。私以外にも高専祭を通し、いろんなことを学んだ学生は多くいると思います。私だけでなく高専祭に参加した皆さんにとってこの高専祭の期間は非常に楽しいものになったのではないのでしょうか。そうであれば第49回高専祭は成功したといえます。私の高専生活の中で最後となる高専祭を実行委員長という特等席で楽しめたことに感謝しています。



3年スキー合宿

将来を考える節目としての スキー研修

3年学年代表 鈴木 康 人

平成27年1月22日木曜日より1泊2日の日程で3学年の学生は合宿研修に行っていました。高専で3年生になったということは5年間の高専生活の残りも半分になったということです。4年生に進級するとインターンシップなど今後の進路を考える講義も始まります。合宿研修の目的は「高専生活の意義を見直し、卒業後の目標を立てる」「己れに挑戦し、物事を成し遂げる大切さを学ぶ」「親睦を深め、お互いを認め合う」という三つを掲げています。今回の研修では、日中にスキーを行い、夜は進路指導としてVPI職業興味検査を実施することでこれらの目的の達成を目指しました。

天候が万全ではなかった状況でしたが大した事故もなく、全員無事に帰校することができました。各施設の方々に始め合宿研修の為に御礼申し上げます。

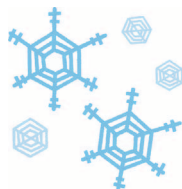
出発日当日の朝、沼津は曇ときどき雨とあいにくの天候が思わしくない状況で始まりました。午前8時25分過ぎに本校を出発し、国道246号線を通り、富士五湖道路のトンネルを山梨側に抜けた途端に道路の路肩に雪の積もった景色が広がり、学生諸君の気分は大変、盛り上がったようでした。しばらくして山梨県南都留郡鳴沢村にある「ふじてんスノーリゾート」へ到着しスキー教室が開催されました。



初日の日中は、あいにく好天とはいいがたく午後より雨が降って来ましたが大きな怪我もなく無事に終了しました。2日目の天候は前日とは変わって晴れになり昼前には富士山を見ることができるとまで回復しました。スキー場は日が昇るに連れてコンディションがよくなり多くの学生がスキーを楽しんだようです。

初日の夜には学科毎に分かれて進路指導研修を実施しました。VPI検査とは大学4年生くらいの年齢のものを対象にした検査で受検者の興味の傾向や潜在的に興味のある職業を指摘できる検査です。最近の学生は職業の関係する検査は未経験であり、検査の結果を見て学生は納得したり、驚いたりそれぞれの自分の傾向について把握できたようでした。

3年生の保護者さま各位におかれましては、学生の帰宅後、合宿研修の様子など訊ねられましたでしょうか。合宿研修はスキー教室ばかりでなく今後の進路についても指導をしております。その他ご家庭でも今回の研修の目的が達成されたかをご確認いただきたいところです。



ロボットコンテスト2014

言葉に追いつく

～ロボコン部の挑戦～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木 悠 祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。今年度もアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）、東海北陸地区大会が10月12日(日)にいしかわ総合スポーツセンター（石川県金沢市）にて開催されました。

第27回の競技課題は、「出前迅速」。ロボットによる「出前」です。フィールドで戦うのは各チーム1台の出前ロボットと3人の高専生（注文人・店主・操縦者）です。出前ロボットはお盆に高く積み上げられた蕎麦の蒸籠を、3つの障害物（スラローム・角材・傾斜）を乗り越えて運びます。競技時間3分間で、少しでも多くの蒸籠を出



ロボコン部の軌跡

ロボコン部部长 電子制御工学科3年
鈴木 莉 子

ロボコンと関わり始め、早3年がたちました。NHKから提示される、毎年変わる高専ロボコンの競技課題に、今年はどうなるだろう、どんなロボットを作ろうかとルール発表の前はわくわくしています。昨年度の競技課題は「Shall We Jump?」というもので、高専生とロボットが協力して大縄跳びをする、という競技でした。私は沼津高専Bチームのチームリーダーとしてチームを引っ張っていき、「オクトパス!!!」という名前のタコをモチーフとしたジャンプロボットで大会に臨みました。地区大会でベスト4、そしてデザイン賞を受賞するという結果でした。

そして今年度の競技課題は「出前迅速」で、競技内容はロボットによる「出前」です。「出前ロボット」が蕎麦

前したチームが勝利となります。足場の悪い条件下で、ロボットがいかに蒸籠を崩すことなく運びきれるかがポイントとなります。

沼津高専からはAチーム「金原さん（キンバラサン）」、Bチーム「MECHARAKURI（メカラクリ）」の2チームが出場しました。ロボコン部部长D3鈴木さんのもと、AチームリーダーM3黒川君、BチームリーダーS2関君を中心として総勢37名の部員たちが連日作業を進めました。結果として、両チーム共に強豪とあたり、1回戦敗退となりました。全国への道のりは遠く、皆様のご期待に応えていない現状に部員たちも決して満足はしていません。今年度の競技は難易度が高く、相手チームもクリアできない状況でしたが、アピール不足、技術不足の点からこのような結果となりました。

しかしながら、今年度は設計したロボットは当日までに100%完成し、大会に臨むことができました。会場でのテストで蒸籠を運びながら角材を乗り越えた瞬間の学生達の叫び・喜び・熱意はすごいものでした。スタートと共に動かない、という状況ではなく、きちんと競技を戦い、負けた形になりました。結果が全て、という部分も大きいのですが、この点については学生たちを褒めたいです。アイデアを具現化する力はこの数年でついてきています。来年度は沼津高専が主幹校、キラメッセぬまづで開催となります。部員達も来年度を見据えた新体制をスタートさせ、オフシーズンを利用して技術向上のための講習だけでなく、過去の大会ルールをもとにアイデア出しを日々重ねています。「全国大会出場」という言葉に追い付けるように、そして追い越せるように、今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。



の注文を受け、お盆に高く積み上げられた蕎麦の蒸籠をお店から出前先まで運びます。その道中には3つの障害物（スラローム、角材、傾斜）があり、これらを乗り越えなければ出前先にたどり着けません。私たちはまず空き教室で机や椅子などを用いてフィールドを再現し、人間をロボットに見立て試合のシミュレーションを行いました。競技フィールドのイメージが掴めたところでチームごとに分かれ、ロボットのアイデア出しに取り掛かりま

した。そして平日の放課後や土曜日、夏休み中の合宿期間を利用してロボット製作を進めていき、10月を迎えました。10月中は体育館での練習を繰り返し行い、ロボットの改良をしました。体育館では最初の障害物である角材に苦労しました。また障害物を乗り越えることの難しさに加え、出前ロボットの本来である蕎麦の出前もしなければなりません。蒸籠の数を増やせば増やすほど倒れる確率が上がってしまいます。どんな作戦で挑むか、これが大変重要で、チームリーダーを中心に皆で考えました。

東海北陸地区高専英語スピーチコンテスト

Trying Something New Makes a New Dot

制御情報工学科4年 後藤麻希

私は、11月15日に行われた東海北陸スピーチコンテストに出場し、優勝することができました。昨年度のコンテストでは、入賞を逃し、悔しい思いをしたのですが、リベンジを果たすことができよかったです。

今回のスピーチでは、とある有名な人の残した言葉について話をしました。みなさん、「connecting the dots」という言葉をご存知でしょうか。この言葉は、apple社のCEOであったスティーブ・ジョブズさんが、スタンフォード大学でスピーチを行った際に話したワンフレーズです。彼は若い頃に大学でなんとなく取っていただけの文字芸術の授業が、将来、意外な部分でMacintoshの開発に役に立ったという経験をしました。その経験から彼は、その当時はただなんとなく、いやいやながらもやっているだけという独立した「点」だったかもしれないが、後になってそれらが繋がって、役立つ時があるかもしれない、と大学生に話をしました。

ジョブズさんのこのスピーチに私は大いに共感しました。私がスピーチコンテストに初めて出場したのは中学2年生の時だったのですが、当時は引っ込み思案だったため人前に立つことが苦痛で仕方なかったです。しかし、それを乗り越えると、性格が明るくなり、友達も増えました。その経験が今年の私の背中を押してくれたのだと思います。今考えてみれば、中学時代のスピーチコンテ

スピーチを通して学んだもの

機械工学科3年 茶田智来

私は昨年11月、東海北陸高専英語スピーチコンテストに出場しました。

スピーチの準備には、原稿作成や暗記、発音練習など

今年度は東海道本線の一部通行止めのため、いつもより早く大会2日前に金沢へ入りました。夜は当日の流れを確認し、昼間はテストランやリハーサルを行いあわただしく過ぎていきました。そして大会当日。沼津高専はA、Bチームともに一回戦敗退という結果に終わりました。この結果は非常に残念でした。しかし会場裏の作業場ではすでに来年度へ向けて動き始めていました。来年度の東海北陸地区大会の主幹校は沼津高専です。全国大会へ出場するため、また最高のパフォーマンスをするため部員一丸となって最高のロボットを作っていきます。



全国高専プレコン

ストは、ひとつの「点」でした。そして、今年のスピーチコンテストも。

スピーチコンテストは日本語の原稿を書き、それを英語の原稿に翻訳するところから始まります。スピーチを始める前の段階から、英訳の難しさや発音などさまざまな壁にぶつかりました。しかし、あの時苦労した分だけ、達成感はもちろん、自信など、得たものはたくさんありました。

ジョブズさんのスピーチからも分かるように、挑戦するということは結果がどうであれ、数年後に必ずやってよかったと思えるときが来ます。それを信じて、私は今後も「点」を増やして行きたいです。その一環として、来年度はスピーチの部から一歩進んでプレゼンテーションの部に参加したいと思っています。

最後になりますが、原稿の校正、英語の指導をしてくださった英語科の藤井先生、James Molloy先生に感謝いたします。

様々な段階がありました。特に苦労したのは表情やボディランゲージの練習です。

初めてネイティブの先生の指導を受けた時のことです。私はほぼ涙みなくスピーチを披露しました。しかし、先生のご指摘は辛辣でした。

「君は原稿を読んでいるだけ。それでは聴衆の心に響かないよ。」

衝撃的でした。自分のスピーチに対する認識の甘さに

気づいた瞬間でした。その先生のおっしゃる通り、私は原稿を単調に読み上げているだけだったのです。

私は身振り手振りで表現力を高めようと試みましたが、羞恥心が先に立ちなかなか理想通りのスピーチにはなりません。私は何度も何度も練習しました。無意識のうちに原稿を口ずさむようになるくらい練習しました。心と体が連動し自然なスピーチができるようになったのはスピーチコンテスト1週間前のことです。本番では自分の力を最大限出しきることができました。

自分は何のために練習していたのでしょうか。それはほかでもないスピーチコンテストのためです。たった7分間のスピーチのためです。しかし、私はスピーチをやり遂げた達成感以上に大きなものを得たような気がします。私のスピーチの中にこんな一節があります。

“ Whichever way you aim for, you shouldn't stay in a

well. Open the window, and look outside. It's a big world out there.”

「いかなる道を進むにせよ、井の中に甘んじていてはいけない。外の世界を見てみよう。そこには大海がある。」

スピーチコンテストへの出場そのものが私にとっては大海への冒険でした。原稿の作成、発音練習、表現力の研鑽……。そのどれもが辛く厳しいものでした。しかし、私はあきらめませんでした。井を飛び出して堂々とスピーチをする姿を思い描きながら自分を磨く時間がとても充実していたからです。

残念ながら入賞は逃してしまいましたが、殻を破って新たな世界に挑んでみたこの経験は一生の宝物です。

最後に、お忙しい中指導してくださった先生方や応援してくれた友人たちに感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

第9回読書感想文コンクール

応募作品 386 点

最優秀賞 (3点)

・自由図書の一部 (2点)

いまを真剣に生きるということ：(『嫌われる勇気』を読んで)
『地獄変』を読んで

1年3組 鈴木史栄琉
M2 酒井龍之介

・課題図書の一部 (1点)

『アヴェ・マリアのヴァイオリン』を読んで

1年1組 渡邊 莉奈

優秀賞 (35点)

・自由図書の一部 (32点)

『ヒコバエ』を読んで

1年1組 秋山 将輝

『ナイフ』を読んで

1年1組 北村 優人

『塩狩峠』を読んで

1年1組 鈴木 大智

『働かないアリに意義がある』を読んで

1年1組 鈴木 晴喜

願いごと：(『バースディガール』を読んで)

1年2組 稲川 はな

『ドミノ』を読んで

1年2組 杉山 瑛

『夏の庭——The Friends』を読んで

1年2組 米川 俊彰

『科学者心得帳』を読んで

1年3組 内藤祐里菜

彼の生涯：(『ゴッホ』を読んで)

1年3組 野末 楓夏

主人公に共感し、胸に刻んだこと：(『明日につづくリズム』を読んで)

1年3組 堀 幹太

一つの生命に憧れて：(『円卓』を読んで)

1年4組 伊藤 真愛

「マネジメント」とは：(『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』を読んで)

1年4組 杉山 咲季

『八甲田山死の彷徨』を読んで

1年4組 鈴木 康介

『僕のいた時間』を読んで

1年4組 山下 美穂

咲く：(『置かれた場所で咲きなさい』を読んで)

1年5組 池田 明優

『言の葉の庭』を読んで

1年5組 大石 晃愛

『西の魔女が死んだ』を読んで

1年5組 落合 晃太

『こころ』を読んでみて

1年5組 勝亦 優斗

『子供の名前が危ない』を読んで

M2 上杉 崇

『天地明察』を読んで
 『人間失格』を読んで
 『ダスト』を読んで
 『山女日記』を読んで
 『ピエタ』を読んで
 『日本型ものづくりの敗北』を読んで
 『舞台』を読んで
 『SOSの猿』を読んで
 『人間失格』を読んで
 『沈黙の春』を読んで
 『目的が正当化させる手段』を読んで
 『翔太の猫のインサイトの夏休み』を読んで
 『いのちの食べ方』を読んで

M2 畑中 智江
 M2 藤沼 謙斗
 M2 山本 裕靖
 E2 高野 悠太
 E2 竹内 誠人
 D2 石田 智士
 D2 今野 瑤心
 S2 高階有輝斗
 S2 戸塚 理紗
 C2 江間 慧
 C2 小山 雅弘
 C2 土田 大介
 C2 山竹 杏奈

・課題図書の一部 (3点)

運命を変える音楽の力：(『アヴェ・マリアのヴァイオリン』を読んで)
 『アヴェ・マリアのヴァイオリン』を読んで
 『生命とは何だろう』を読んで

1年1組 吉田 朝輝
 1年2組 松下 利樹
 1年4組 遠山 暉大

読書感想文コンクールについて

図書館長 中 園 孝 信

NHKクローズアップ現代で「広がる“読書ゼロ” 学生に何が？」が2014年12月に放送された。国谷裕子キャスターは「歩く間も惜しんで本を読んでいたという二宮金次郎を日本人は敬ってきた。読書は知性を育て心を豊かにするものと尊ばれてきた。しかし、…」と切り出した。文化庁が発表した調査によると1ヵ月に1冊も本を読まない人が47.5%もいた。10年前と比べると約10%増えている。番組の中でジャーナリストの立花隆氏は、「本というのは総合メディアである。知・情・意の全部あるのが人間の脳である。…本を読むだけではなく、次のステップとしてアウトプットつまり何かをまとめて書くという体験にいかないとより読書が深められない。そういう中で考える力がついていく。」と語った。

さて、今年度の読書感想文コンクールには386点の応募があった。誤字脱字は困るが自分なりに努力して書いた形跡がみられた。図書館運営委員会と国語科で選考し、最優秀賞3点と優秀賞35点を選んだ。

最優秀賞の3点を紹介する。M2酒井龍之介君は芥川龍之介の『地獄変』を読んで芥川龍之介の畏について書いた。酒井君は『地獄変』をエンジニア向けの本であるという。研究に没頭し「一歩前進する」エンジニアに共感するものが『地獄変』にはあると書いた。

『嫌われる勇気』は哲人のもとに青年が尋ね、哲人の真意を問いただそうと議論を展開していく本である。1年3組の鈴木史栄琉君はこの本を読んで、「いま、ここ」を



読書感想文コンクール表彰

真剣に生きること、それはシンプルなことだが難しいことのようにも思える。難しいことかもしれないが、わたしは今の自分から目を背けずしっかり見つめ「幸福だ」と思える人生を歩んでいけるよう努力していきたい。」と感想文を締めくくっていた。

第60回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書の『アヴェ・マリアのヴァイオリン』を読んだのは1年1組渡邊莉奈さんである。第一次世界大戦時の徳島県鳴門市の坂東捕虜収容所、第二次世界大戦のアウシュビッツ収容所、そして、現代日本に生きる女子中学生を、アヴェ・マリアのヴァイオリンがつなぐ物語である。渡邊さんは感想文の中で「人の気持ちを考えることこそが歴史を学ぶ意味があるのだ」と思い知らされました。」と感想を述べた。

2014年12月22日の終業式で柳下校長から3人に表彰状と賞品の図書カードが贈られ、全校の学生から大きな拍手が送られた。

第8回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

全国高専英語プレコン参加のご報告

英語担当 藤井 数馬

1月24日(土)、25日(日)に東京のオリンピック記念青少年総合センターで第8回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト(プレコン)が開かれました。プレコンというのは、ロボットコンテストやプログラミングコンテストと同様、全国高専連合会の主催によって開かれる、高専生対象の全国規模の英語のコンテストです。今年で8回目を迎えたこのプレコンには、1人で行う「スピーチ部門」と、3人組のチームで行う「プレゼンテーション部門」の2つの部門があり、全国プレコンに出場するためには、スピーチの部では各地区大会で上位2名に入ることが条件になり、プレゼンテーション部門では録画したDVDの審査により全国で上位10校に入ることが条件になります。

今年度、地区大会にあたる「第8回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト」が11月15日(土)に金沢高専で行われ、制御情報工学科4年生の後藤麻希さんと、

機械工学科3年生の茶田智来くんが本校代表として参加しました。このコンテストの結果、8高専9キャンパスから集まった15名の参加者の中で見事後藤さんが優勝を果たし、全国プレコンへの出場権を手にし、沼津高専としても4年連続で全国プレコンへの出場となりました。

後藤さんのスピーチは、“Trying Something New Makes a New Dot”というタイトルで、故スティーブ・ジョブズ氏の“connecting the dots”というフレーズを引用しながら、新しいことに挑戦することで思いもかけない世界が広がってゆくことを、自身の中学校時代のスピーチコンテストの体験や高専に入学してからのボランティア活動を具体例として挙げて論じました。

全国大会では、約半年間にわたって取り組んできた練習の成果を十分に発揮し、素晴らしいスピーチを堂々としてくれました。残念ながら全国大会での入賞には至りませんでしたが、後藤さんのスピーチはきっと多くの聴衆の心に届き、本人にとっても忘れられない体験になったことと思います。また、今後、後藤さんに続く学生が本校の中からたくさん出てきてくれることを願っております。

末尾になりましたが、教育後援会には毎年ご支援をいただいておりますことを、この場を借りて心より感謝申し上げます。

退職教職員から



28年間の思い出、そして感謝

電気電子工学科
江間 敏

昭和62年の国鉄改革を機に母校(6期生)に帰り、高専での28年の教員生活も今春、終わりました。4月から週2日の勤務となります。長い間、教職員、保護者の皆様には大変、お世話になり、有難うございました。

1. 約半世紀、48年前に沼津高専へ(6期生)

高専への入学は、約半世紀前になります。初めて卒業生が出た年でもあり、学校として形がみえてきた頃でした。周りは畑、林で道路も未舗装で、学校内は空きスペースが多く、ほとんどが男子学生、女子は4名程でした。編入学受入れ大学もわずかで、設立目標の中堅エンジニアとしての就職が主でした。マラソン大会、スタンド造りのあった運動会、制服等懐しく感じます。(高専だより98号記載)

2. 国鉄でリニアモーターカーの研究開発へ

高専卒業後、もう少し勉強したいと思い、初めて募集のあった金沢大学に編入学。その後、東工大大学院に進学しました。オイルショックの昭和52年、就職難の中、当時の国鉄本社に採用されました。10年勤務の内、5年間リニアモーターの研究・開発に従事しました。そのリニアモーターカーも2027年いよいよ開業予定となり、名古屋まで着工となりました。私は初期の開発グループにおり、その後ずっとリニアを研究テーマにしてきた者として感慨深いものがあります。当時は宮崎実験線で、軽自動車のようなリニアカーMLU号で実験が行われていました。初めは成田・東京間の空港アクセスぐらいを考え、東京・大阪リニア新幹線は夢物語だと思っていました。110年前、ライト兄弟がグライダーを飛ばし、現在ではあのジャンボ機が世界の空を飛んでいるように、やはり「技術は進歩するもの」と痛感しています。

まだまだ、安全面を含めリニアも課題があると思います。残された年月で十分な検討・対策をJR東海・鉄道総研に期待しています。

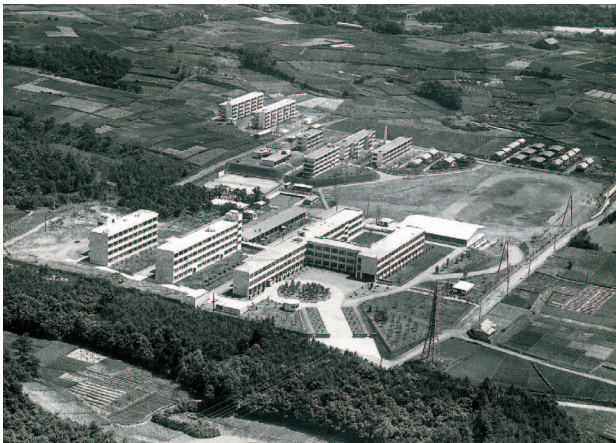
3. 15年ぶりに母校へ、そして28年間お世話になりました。

赴任当時は土曜日も学校があり、現在のメール社会、さまざまな行事、資料作り等の忙しい生活と比較すると、

教員としてゆとりのある生活だったと懐かしく感じます。スクールバスで学生と発電所、実験線、講演に行ったり、毎週の学科会議、1日体験入学でのカミナリ実験、リニアモータ実験等―扇風機しかない真夏の実験室で毎年の卒研究生も奮闘しました。部活動では体操部顧問も浦崎、佐藤先生らと20年程担当させていただきました。経済最優先主義の採算・効率化社会が、戦後の日本社会を引っ張ってきた時代でもあります。時間と共に教育現場のゆとりも少なくなり、中学教員の勤務時間は世界最長との報告もあります。方向性を少し変え、時間と心のゆとりが多少なりとも復活できればと思います。

学生への教育は、図、ビデオ等で「わかりやすく」を心がけてきました。15年位前に本を書く機会にも恵まれ「電気工学」「パワーエレクトロニクス」「最新電気鉄道」の専攻分野の3部作を共著者として執筆することができ、10年を経た今でも出版されています。学科では学科長、就職担当、電験認定校手続き、図書館長、50年記念史長等担当させていただきました。

専門が電力、鉄道関係でしたので、多くの卒研究生を電力会社、JR各社に送り、電力マン、鉄道エンジニア、新幹線運転士等、元気に活躍している様子は何事にもまじ嬉しいことです。



学校全景（創立10周年、昭和47年）

校外では、電気学会の委員、沼津支所長、鉄道電気技術協会委員会委員長等、リーダー的な仕事を民間企業の方たちと一緒に仕事をさせていただいたことも貴重な経験です

4. 高専の将来に思う

50年史では、「さまざまな変遷を経て50年、沼津高専はこれから、更なる50年たゆまぬ努力を続け、多くの優秀なエンジニア、研究者を世に送り続けます。」と結びました。

少子高齢化の日本における、さまざまな領域においてのシステムチェンジは必須であり、大学をはじめとする高等教育機関の再編を含む改革もあるのではないのでしょうか。最近の国際社会、情報社会をはじめ世の中の変化の早さには目を見張るものがあります。社会のグローバル化と共に高専の「立ち位置」「守備範囲」も変化しつつありますが、「若き日の五つ年」に培った「フットワークのよい現場エンジニアのリーダー」的存在は生き続けて欲しいと思います。

以上をもちまして定年挨拶とさせていただきます。長い間有難うございました。



当時の実験線電気系技術者（右から3番目筆者）

卒業生・修了生から

最後の学生生活を終えて

機械工学科5年 石川 義基

平成26年も過ぎ去り、卒業がもう目の前に迫ってきていることを実感しています。今思えば、中学2年生の時、高専のことを親に教えてもらったことが、この生活のスタートでした。その時には『5年間も同じ学校に通うのか』と考えていましたが、今振り返ってみると、『もう終わってしまうのか』と感じています。それほど、高専で

の生活は充実したものでした。

私にとって高専生活は、「出会いと学び」と「順風満帆」という言葉で表現できます。多くの人と出会い、様々なことを学びました。やりたいことができ、自分の目標に向かってひたすら前進するのみでした。人との出会いは、やはり寮生活でしょうか。同級生はもちろん、多くの上級生や下級生とも出会うことができました。十人十色というように、様々なキャラクターの人が集まっている寮での生活は、多くのことを学ぶ良い環境でした。いろいろな会話の中で同じことでも様々な視点から見ることによって全く違う考えになることもわかりました。寮生活

を通してコミュニケーションの力、広い視野で物事を考える力が培われたものと思います。

勉強は高学年になるにつれて、専門科目が多くなって課題も増え、特に機械工学科の機械設計製図は大変でしたが、私の場合、うまく計画を立てて進めることができたので楽しみながらできました。また、テスト期間は毎回苦労しましたが、どの教科も勉強する際には、先輩や友人の協力が必要で、難しい問題を教えたり、教えてもらったりしていたのが良い思い出です。

高専生活で特に大きな出来事と言えば、1年間ヨーロッパのマルタ共和国に留学したことです。両親のおかげで普通の学生ではできない経験をすることができました。語学力の向上はもちろんですが、ここでも多くの人々と出会いや経験により大きく成長することができました。このことが第一希望の企業から内定を頂いた要因の一つであると思います。

私は友人や先生方、両親など多くの方々のおかげでこんなにも素晴らしい学生生活を送ることができました。

5年間を振り返って

電気電子工学科5年 加藤 史也

成人式を終え卒業が間近に迫ってくるにつれて、入学時のことなど過去のことをよく思い出しては懐かしい気分になることが増えてきました。気が付けば高専の合格発表を緊張しながら見た中学3年生の時からあっという間に5年の歳月が流れていました。専門的なことをやる場所や寮生活など、普通の高校と違った雰囲気や憧れ受験したことは今でも鮮明に覚えています。私は電気電子工学科に入学しましたが、もともとはプログラミングがやりたくて制御情報工学科志望でした。それに加え低学年は専門教科が少ないこともあり1年生の頃は他学科の専門教科をやっている学生に憧れていました。そして当時の私は趣味でプログラミングなどを始め、学科の講義で電気の分野を学ぼうと強く決意しました。これが自分の高専生活のすべての始まりだったと思います。その後趣味で勉強を始めた頃、学科の先生が勉強会や技術的なことに関わることができる環境を提供してくださったので、趣味に没頭することができました。そのうちに、自分とは比較にならないようなスキルを持った同級生や先輩に出会い、力不足ながらも全国高専プログラミングコンテストに出場したり、高専祭に向けたソフトウェア開発の機会まで与えていただきました。もう一つ転機があり、3年生の頃先輩からマイコンを使った電子工作を教えていただいたことです。これまで電気の分野は授業でやっていた回路の計算や、論理回路などの知識を持ち合わせていただけでした。マイコンを使うにあたって電子回路を設計、実装するスキルはプログラミングのス

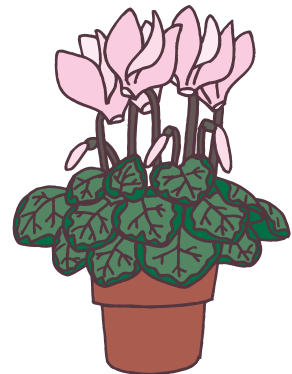
社会人になっても沼津高専で楽しく過ごした日々を忘れることなく頑張りたいと思います。最後に、この場を借りて、両親・先生方、そして学校で関わったすべての人に感謝致します。



卒業研究 中間発表会

キルだけでは補えず、これまでの電気の知識が生きてきた瞬間でした。講義で学んだことがそのまま実践できる感覚はとても素晴らしいものでした。それに加えこれまでの知識も活用できる電子工作に惹かれ、没頭していきました。こうして趣味ではありますがソフトウェア・ハードウェア両方の分野で色々なものを作ってきて今に至ります。ここまで趣味を謳歌できたのは、開発意欲を触発する同級生や先輩、先生と深く関わることが出来たからだと思います。

最後に私は高専で5年間を過ごすことができてよかったと思います。もし高専ではない別の環境で過ごしていたら技術的なことに興味を持つわけでもなく、ただ憧れているだけの20歳になっていたかもしれません。今後はこれまでの経験を生かしつつ、自分磨きに努めていきます。



あまり食べられなかった私から

電子制御工学科5年 野村 允 春

微笑みながら我々の入学を祝福してくれていた、5年前出会った桜の木々が、今度は我々の卒業を祝福してくれています。当時果てしなく感じた5年間の学校生活も知らぬうちに幕を閉じ、「少年老い易く学成り難し」とはよくいったものだと感心せざるを得ない、そんな感情を抱いています。

入学初期に御殿場の宿泊施設で行われた新入生オリエンテーション研修で、我々は自分たちの立場をたつぷりと聞かされました。当時退屈でたまらず夢の世界に逃げた者も多かったその話の内容は、「生徒」と「学生」の差でした。もちろん私も例外でなく、つまらぬ話だと現を抜かしていました。しかしその話が、今になってとても大事だったと思えてきたのです。「中等教育後期」である高等学校と「高等教育」である高等専門学校の差、そしてなによりそこで授業を受ける「生徒」と「学生」の差は、決して聞き流していい話ではなかったのです。この二つの最大の差は「本人の積極性」です。これは例えるならば、「フルコース」と「ビュッフェ」です。高等学校で勉強する分には、先生が丁寧に授業し、分かるまで手伝ってくれることもあるでしょう。追試を行い、受かる

まで付き合ってくれたりもするでしょう。つまり、待っていれば授業、知識が運ばれてくるのです。しかし高等専門学校では、運ばれてこないのです。機械、電気、情報、化学の知識に触れられるこの学校という環境は、和食、洋食、中華、イタリアンが一つの会場に並べられているビュッフェみたいなものです。たくさんの種類の料理が並べられ、本人が望めば好きなだけ、好きなものを食べられるのです。それはフルコースと比べられないほどの種類と量なのです。しかし、自分の元へ料理が運ばれてくることはありません。本人が待っているだけでは、何ひとつ口に入れられないのです。それがビュッフェというものです。沼津高専に入学した者は、いち早くこのルールに気がつくべきであり、だからこそ最初の研修で散々説明されたのです。

さて、話の流れから分かるように、私はこのルールに気づくのが遅かった愚かな人間です。いや、正確にはルールを知っていながら自分から何も手をつけなかった最も愚かな人間です。在学中の皆さん、損していませんか？この学校にはたくさんの知識や、知識をくれる環境があります。日頃の授業や尊敬できる知人との交流を見直し、そして誇って下さい。入学を検討している人は、損をしないで下さいね。ここでルールを知ったあなたは、私みたいに愚かな選択をしない限り、高等学校よりお得な学生生活を送れるはずですよ。

7年間の高専生活を振り返って

機械・電気システム工学専攻2年

川口 直輝

私が沼津高専に入学したのが今から7年前の春です。7年間という時間はとても長いように感じられますが、実際に振り返ると密度の濃い素晴らしい時間でしたので、あっという間の出来事のように思えます。そのようなかけがえのない思い出の中で、自分が伝えたい主に2つの事柄について記します。

1つめは、沼津高専の学生寮についてです。沼津高専生は、入学と同時に入寮することになります。私も親元を離れて寮生活を始め、さまざまな苦労や困難を味わうことになりました。その一方で寮生活の魅力に気づき、本科5年時には寮長も務めました。寮生活では、普通の高中生や大学生が決して得ることが出来ない、たくさんの貴重な経験や体験がありました。また、多くの先輩や後輩、仲間に出会うことも出来ました。もちろん、勉学も学生の本分であり、重要です。しかし、高専で過ごす多感な時期に多くの人と触れ合い、共に生活をして自分の意見を述べ合うといった、人間関係を形成する上での重要な経験は何事にも代えがたいものです。私自身も寮

生活を通して、成長できたと思います。そして、その経験は将来役に立つものだと感じており、来年度以降も寮生活を送る在校生にも是非、その経験を無駄にしないように過ごして欲しいと思います。

2つめは、専攻科についてです。私が専攻科に進学することを決めたのは4年の冬でした。大学に編入するという道もありましたが、自分の実力を高めて目標とする大学院に進学することを心に決めて、専攻科を選びました。専攻科は大学編入の道よりも、個人の自由な時間がとりやすく、自分の取りたい授業を選択できるカリキュラムであり、学校での勉強、研究と両立して自分の大学院入試に関する勉強を進めることが出来ました。また、大学院に研究室見学に行くと、沼津高専の専攻科生ということで高い評価を頂き、温かく研究室に迎えていただきました。来年度から無事に大学院に進学も決まり、専攻科への進学を選択して良かったと思っています。

最後になりましたが、私に研究指導をして下さった江間教授、進路指導をして下さった野毛教授をはじめとした先生方や、高専での生活を支えてくださった先輩、後輩、友人の皆、そして家族に感謝の言葉を述べたいと思います。本当にありがとうございました。



学生の研究活動 (2014.4.1~2015.3.31)

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

International Power Electronics Conference/
International Conference Center Hiroshima/
平成26年5月18日~21日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	齋藤 亮	Adaptive Signal Injection Method Combined with EEMF Based Position Sensorless Control of IPMSM Drives (馬飼野祐貴、大沼巧)	大沼 巧

ROBOMECH2014 in Toyama/富山市総合体育館/
平成26年5月25日~29日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	西村和真	超音波診断・治療補助ロボットReDATによるプローブ走査のためのワイヤ駆動制御系の構築(秋山隼人、脇坂久)	青木悠祐
DS2	富岡悠二	超音波診断における精神的・肉体的疲労計測と負担軽減システムの提案(飯谷健太、脇坂久)	青木悠祐
DS2	梅原優太	生体信号とプローブ走査情報に基づいた超音波診断における熟練手技解析(飯谷健太)	青木悠祐
MC1	佐野徳美	滴下調整支援を目的とした点滴筒装着デバイスの開発(鈴木克真、梅原優太、飯谷健太、田中範佳)	青木悠祐
MC1	鈴木克真	バスケットボールにおけるシュート時の全身協調動作解析(飯谷健太、梅原優太)	青木悠祐
MC1	田中優斗	人とロボットの協調動作による超音波診断・治療補助アプローチ方法の検討(西村和真、脇坂久)	青木悠祐
DS2	福永航希	高速回転偏光子法による複屈折測定装置の開発(大久保進也)	大久保進也

電気学会産業応用部門大会/東京電機大学/
平成26年8月26日~28日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	齋藤 亮	拡張誘起電圧の振幅推定における抵抗誤差の影響(大沼巧、高野明夫)	大沼 巧

第58回粘土科学討論会/福島市A・O・Z/
平成26年9月24日~27日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	吉川 萌	Ge置換イモゴライトの合成に与える熟成の影響(松本翔・柳山一規・大川政志)	大川政志
C5	杉澤宏樹	イモゴライトのNMRスペクトルに与えるGe置換の影響(野秋拓也・大川政志)	大川政志

日本フルードパワーシステム学会/第24回フルードパワー国際見本市 カレッジ研究発表展示コーナー論文集/
平成26年9月27日~29日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	寺内滯央	高齢者の姿勢保持と重心移動のための空気圧装置の開発(村松久巳)	村松久巳

第44回石油・石油化学討論会/旭川グランドホテル/
平成26年10月17日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	金子喬士郎	セルラーゼによるペーパーラッジ糖化反応への馬鈴薯タンパク添加効果発現機構の解析	蓮實文彦 竹口昌之

日本機械学会/山梨大学工学部/平成26年10月18日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	石田裕哉	温度変動時のガスケット付きフランジ締結体のボルト軸力変化に与える初期締付力及び温度サイクルの影響(小林隆志、糸井克豊、平塚雅章、森本吏一)	小林隆志
ME2	鈴木洋輔	高温におけるフランジ締結体のボルト軸力変化とガスケット変形挙動(小林隆志、佐藤広嗣)	小林隆志
EC1	善養寺千裕	ガスケットのクリープ変形によるフランジ締結体のボルト軸力低下(小林隆志、石田裕哉)	小林隆志

Conference on Electrical Insulation & Dielectric Phenomena/アメリカ合衆国アイオワ州デモインデモン・マリオット・ダウンタウン・ホテル/
平成26年10月19日~22日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	関 篤志	High Field Dielectric Properties of Polyethylene Terephthalate (小池侑紀、山本未蘭、遠山和之)	遠山和之

第19回静岡健康・長寿学術フォーラム/
沼津プラサヴェルデ/平成26年11月7日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	石川伸之輔	Preventive effects of catechin derivatives and catechin polymers in various teas (<i>Camellia sinensis</i>) on mouse contact hypersensitivity (佐野満昭、芳野恭士)	芳野恭士
CB2 C5	善養寺優香 杉本奈央	Preventive effects of Kosencha on postprandial elevation of plasma glucose levels and activities of intestinal α -glucosidase in mice (鈴木百、清水康夫、芳野恭士)	芳野恭士
C5 AC1	山内健矢 山田瑞恵	Preventive effects of methanol extract prepared from leaf of <i>Anredera cordifolia</i> on hepatic disorders in high fat diet-treated mice (新井康介、榊山達也、石川伸行、吉田歩、嘉島康二、芳野恭士)	芳野恭士
C5 MC1	芳野文香 小関元気	Preventive effects of extracts prepared from leaves and stems of <i>Salacia reticulata</i> on skin aging <i>in vitro</i> (金高隆、芳野恭士)	芳野恭士

第57回自動制御連合講演会/群馬伊香保 ホテル天坊/
平成26年11月10日~12日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	富岡悠二	ロボットによる超音波プローブ走査支援による負担軽減システムの構築 (遠藤祐太郎)	青木悠祐
DS2	西村和真	超音波診断・治療補助ロボットReDATにおけるピボット動作のためのコンプライアンス制御 (田中優斗)	青木悠祐
MC1	田中優斗	手術台高さ変動に伴う圧計測トランスデューサ調整機構の開発 (佐野徳美)	青木悠祐
MC1	佐野徳美	超音波診断におけるプローブ走査に伴う断層像変化に着目した変換行列の推定 (梅原優太)	青木悠祐
MC1	遠藤祐太郎	超音波診断時における検者・被験者姿勢の生体信号への影響評価 (富岡悠二、鈴木克真)	青木悠祐

4th International Symposium on Technology for Sustainability (ISTS2014)/
台北科技大学/平成26年11月19日~21日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
DS2	Yuji Tomioka	Construction of Load Reduction System for Echography Based on Measurement of Biological Signal	Yusuke Aoki

電気学会東京支部沼津・山梨支所合同研究発表会/
東芝キャリア/平成26年11月21日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	岩田大輝	新しい座標系を用いIPMSM制御の高性能化 (大沼巧)	大沼 巧

日本育種学会中部談話会/岐阜大学/
平成26年11月21日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	飯田誠也 寺前香里	チャ (<i>Camellia sinensis</i>) およびツバキ (<i>C. japonica</i>) の染色体FISH (中尾真之、渡邊聖人、高橋映莉乃、古川一実)	古川一実
C5	林 若那 高橋沙英	キムワイプやろ紙を利用した迅速なチャ体細胞胚の成長 (青木湧、古川一実) 優秀ポスター受賞	古川一実

富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2014/
ふじさんめっせ(富士市産業交流展示場)/平成26年11月28日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
EC1	植田瑞紀	金属マグネシウム加水分解反応に対する金属塩添加効果 (薬科知之)	薬科知之
CB2	鈴木卓磨	<i>Alcaligenes</i> sp.YK-1株におけるアンモニア資化機構の解析	蓮實文彦 竹口昌之
CB2	花城拓史	蛍光ラベル化抗体を用いたイムノクロマトグラフィーの高感度化	蓮實文彦 竹口昌之
CB2 C5	善養寺優香 杉本奈央	香煎茶の血糖上昇抑制作用 (清水康夫、清水篤、芳野恭士)	芳野恭士
MC1 C5	小関元気 芳野文香	コタラヒムブツの皮膚老化抑制作用に関する基礎研究 (芳野恭士、金高隆)	芳野恭士
DS2	福永航希	高速回転偏光子法による複屈折測定装置の開発 (大久保進也)	大久保進也
DS2	松下真太郎	水質改善に向けた門池内流れの数値解析 (松本祐子)	松本祐子
E5	加藤史也	磁界分布測定のためのグリッド構造コイルの作製 ポスター発表優秀賞	嶋 直樹
E5	茂手木沙耶 渡邊匠馬	ベクトル周波数変調法による多重インバータの制御 ポスター発表最優秀賞	高野明夫
ME2	西岡裕訓	MD法を用いた金属表面における粒子輸送の計算	西村賢治
DS2	吉田拓馬	van der Pol型結合振動子系におけるリミットサイクルの多重存在性と結合条件	牛丸真司
DS2	北川琢真	USBを用いた移動型ロボットの開発 (清拓磨)	川上 誠
DS2	諏訪部 純	NFCによる入退室管理システムの開発 (北川琢真)	川上 誠
C5 C5 D5	寺前香里 鈴木佑季 高橋一将	学生による学生の為の英語学習支援活動の試み	藤井数馬

D5	山田知史	ロボット間通信可能なサッカーロボット用プラットフォームの開発 (野村允春)	川上 誠
D5	高原一真	サッカーロボット用全方位ボールセンサユニットの開発 (北川琢真)	川上 誠
D5	瀬戸翔太	超音波診断・治療補助ロボットReDATによる基準断面撮像実験 (田中優斗、西村和真) 制御・情報分野最優秀賞ポスター賞	青木悠祐
D5	渡邊智郎	超音波診断におけるプローブ熟練手技の定量化に関する検討 (佐野徳美、梅原優太、鈴木克真) 制御・情報分野 優秀賞ポスター賞	青木悠祐
D5	高橋一将	診断時における生体信号変化に基づいた超音波診断支援システムの構築 (遠藤祐太朗、富岡悠二)	青木悠祐
D5	吉田谷隼平	看護師支援を目的とした滴下調整デバイスの開発と社会実装実験 (佐野徳美、田中優斗)	青木悠祐
D5	西島侑作	バドミントントレーニングマシン開発を通じた技術者教育 (大沼巧)	大沼 巧

第45回 中部化学関係学協会支部連合秋季大会 (春日井) / 中部大学春日井キャンパス / 平成26年11月29日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2	鈴木康平	<i>Geotrichum</i> sp. M111-M3株による製紙廃水中セルロース微細繊維の凝集 (酒類総合研究所・藤井力、長岡科学技術大学・小笠原渉・志田洋介、沼津高専・竹口昌之)	竹口昌之

技科大高専連携研究発表会 / 豊橋技術科学大学 / 平成26年12月26日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
S5	遠藤拓夢 諏訪部育磨	連続聴効果に関する数理モデル研究 (堀川順生、宮下真信)	宮下真信

第20回シンポジウム in 函館 / 函館工業高等専門学校 / 平成27年1月10日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
D5	瀬戸翔太	超音波診断・治療補助ロボット ReDAT によるプローブロボット動作を伴う断層像取得アプローチ (田中優斗、西村和真)	青木悠祐
D5	渡邊智郎	断層像取得に伴うメンタルローテーション能力の超音波診断支援システムへの適用 (佐野徳美、梅原優太、鈴木克真)	青木悠祐
D5	高橋一将	超音波診断における検査者の負担軽減を目的とした生体信号解析システムの構築 (遠藤祐太朗、富岡悠二)	青木悠祐

D5	吉田谷隼平	潜在ニーズ顕在化マッピングを用いた輸液支援管理機器の開発 (佐野徳美、田中優斗)	青木悠祐
D5	岩田大輝	最大トルク制御座標系を用いたIPMSM制御の高性能化 (大沼巧)	大沼 巧
D5	西島侑作	バドミントントレーニングマシンによる地域貢献 (大沼巧)	大沼 巧

日本材料学会東海支部第9回学術講演会 / 名古屋大学野依記念学術交流館 / 平成27年3月4日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
M5	久保睦稀	CFRP積層板の重ね合わせ平パンチ加工 (松田伸也、渡邊信太、黄木景二、矢代茂樹)	松田伸也
M5	中田 豪	熱衝撃を受けたセラミック軸受球の接触損傷特性 (松田伸也)	松田伸也
M5	村松星彦	CFRP積層板の平パンチ加工に及ぼす温度の影響 (松田伸也、渡邊信太、黄木景二、矢代茂樹)	松田伸也
M5	望月達成	セラミック軸受球の熱衝撃破壊特性 (松田伸也)	松田伸也

第17回化学工学会学生発表会 (八戸大会) / 八戸工業高等専門学校 / 平成27年3月7日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	栗原健人	<i>Geobacillus</i> sp. NTS46 由来ペーパースラッジ糖化酵素活性に対する培地炭素源の影響 (長岡科学技術大学・小笠原渉・志田洋介、沼津高専・竹口昌之)	竹口昌之
CB2	鈴木卓磨	アンモニア資化菌 <i>Alcaligenes</i> sp. YK-1 株におけるアンモニア資化機構の解析	蓮實文彦 竹口昌之

日本機械学会東海学生会第46回学生員卒業研究発表講演会 / 中部大学 春日井キャンパス / 平成27年3月12日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
ME2	鈴木智大	FPGAを用いた二線式温度流速計用の遅延補償系の開発	大庭勝久
D5	井上裕太	デジタル相互補償系による熱流体計測器の高精度化	大庭勝久
D5	牛山健太	PXIプラットフォームを用いた風洞実験の効率化	大庭勝久
D5	杉山春樹	小型風洞の性能改善に関する研究	大庭勝久

日本機械学会東海支部第64期総会・講演会 / 中部大学 春日井キャンパス / 平成27年3月13日~14日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
MC1	戸本佳佑	FPGAを用いた時変デジタルフィルタの熱流体計測への適用	大庭勝久

第30回茶学術研究会講演会／
ホテルアソシア静岡／平成27年3月17日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
CB2 C5	善養寺優香 杉本奈央	各種香煎茶の糖吸収抑制作用(清水康夫、清水篤、芳野恭士)	芳野恭士

日本セラミックス協会2015年年会／岡山大学／
2015年3月18日～20日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
AC1	笹本菜摘	La2O3を含むアルカリホウ酸塩ガラスの構造の研究(大川政志・伊東祥隆・澤口直哉)	大川政志

日本育種学会第127回講演会／玉川大学／
平成27年3月21日～22日

学科・学年	学生氏名	講演発表題名(共同研究者名)	指導教員
C5	飯田誠也 寺前香里	Camellia属植物および種間雑種におけるrDNA配列FISHの比較(古川一実、神戸大学大学院 近江戸伸子)	古川一実
AC1	小川桜子	イネ品種‘あきだわら’の準同質遺伝子系統におけるアミロース含有率に対する‘おぼろづき’由来の低アミロースアレルWx1-1の効果とその登熟温度応答性(作物研究所 田中淳一、鈴木保宏、石井卓朗)	古川一実

平成26年度卒業生・修了生進路先一覧

平成27年3月2日現在

機械工学科

38名

就職先企業

25名

株式会社ヤクルト本社	1
トヨタ自動車株式会社	1
株式会社アドバンテスト	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
DMG森精機株式会社	1
ヤマハ発動機株式会社	1
出光興産株式会社	1
JX日鉱日石エネルギー株式会社	2
いすゞエンジニアリング株式会社	1
日本特殊陶業株式会社	1
東燃化学合同会社	2
東芝機械株式会社	1
株式会社Mテック	1
株式会社電業社機械製作所	1
株式会社岡村製作所	1

浜松ホトニクス株式会社	1
Meiji Seika ファルマ株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
新日鐵住金株式会社	1
川崎重工業株式会社	1
雪印メグミルク株式会社	1
株式会社リコー	1
ビヨンズ株式会社	1

進学(編入学)先大学等

13名

東京農工大学工学部	2
富山大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	1
大阪大学工学部	1
専攻科	6
東京デザイン専門学校	1
進学希望	1

電気電子工学科

39名

就職先企業

16名

アステラスファーマテック株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	2
富士通株式会社	1
旭化成株式会社	1
中部電力株式会社	1
東京ガス株式会社	1
フジテック株式会社	1
三明電子産業株式会社	1
リコージャパン株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
富士鋼業株式会社	1
日本海洋掘削株式会社	1
東京コンピュータサービス株式会社	1
株式会社ソノリテ	1
株式会社テクモ	1

進学(編入学)先大学等

23名

北海道大学工学部	1
福島大学共生システム理工学類	1
筑波大学理工学群	1
千葉大学工学部	2
東京農工大学工学部	2
東京工業大学工学部	1
横浜国立大学理工学部	1
横浜国立大学経済学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
名古屋大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	4
豊田工業大学工学部	1
立命館大学理工学部	2
専攻科	1
東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校	1
進学希望	2

電子制御工学科

35名

就職先企業

17名

株式会社フリーダム	1
株式会社明電舎	1
ダイキン工業株式会社	1
キャノン株式会社	1
独立行政法人国立印刷局	1
シチズン電子株式会社	1
東レ株式会社	1
NTTコム エンジニアリング株式会社	1
村田機械株式会社	1
日立建機株式会社	1
明電システムソリューション株式会社	1

コンチネンタル・オートモーティブ株式会社	1
勝亦建築工業	1
株式会社NHKメディアテクノロジー	1
エミック株式会社	1
THKインテックス株式会社	2

進学（編入学）先大学等

18名

千葉大学工学部	3
横浜国立大学理工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
大阪大学基礎工学部	1
専攻科	10

制御情報工学科

41名

就職先企業

17名

独立行政法人国立印刷局	1
株式会社ケーヒン	1
サントリープロダクツ株式会社	1
富士乳業株式会社	1
富士テクノサービス株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	1
オムロン フィールドエンジニアリング株式会社	1
株式会社東海ソフトウェア	1
株式会社テクノサイト	1
JX日鉱日石エネルギー株式会社	1
富士ゼロックス静岡株式会社	1
東芝機械株式会社	1
フジテック株式会社	1
チームラボ株式会社	1
株式会社システムシェアード	1
就職希望	1

進学（編入学）先大学等

24名

東北大学理学部	1
秋田大学工学資源学部	1
茨城大学理学部	1
筑波大学情報学群	1
千葉大学工学部	3
東京農工大学工学部	2
東京工業大学工学部	1
東京工業大学理学部	1
静岡大学情報学部	1
豊橋技術科学大学工学部	6
大阪大学基礎工学部	1
高知大学理学部	1
専攻科	3
進学希望	1

物質工学科

40名

就職先企業

12名

株式会社日立ハイテクサイエンス	1
アステラスファーマテック株式会社	1
クノール食品株式会社	1
株式会社小松製作所	1
株式会社LIXIL	1
ジェイカムアグリ株式会社	1
サッポロビール株式会社	1
富士乳業株式会社	1
イハラニッケイ化学工業株式会社	1
ユニ・チャームプロダクツ株式会社	1
町田食品株式会社	1
三菱化学ハイテクニカ株式会社小田原テクノセンター	1

進学（編入学）先大学等

28名

千葉大学工学部	1
東京農工大学工学部	2
東京工業大学工学部	1
東京工業大学生命理工学部	2
横浜国立大学理工学部	1
新潟大学農学部	1
長岡技術科学大学工学部	4
信州大学農学部	2
信州大学繊維学部	1
金沢大学理工学域	1
岐阜大学応用生物科学部	1
静岡大学農学部	1
豊橋技術科学大学工学部	1
首都大学東京都市環境学部	1
静岡県立大学食品栄養科学部	1
専攻科	6
東京デザイナー学院	1

機械・電気システム工学専攻 8名

就職先企業 4名

日本テトラパック株式会社	1
南部化成株式会社	1
東芝キャリア株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1

進学先等 4名

東京工業大学大学院 総合理工学研究科	1
電気通信大学大学院 情報システム学研究科	1
横浜国立大学大学院 工学府	1
長岡技術科学大学大学院 工学研究科	1

制御・情報システム工学専攻 8名

就職先企業 3名

株式会社日立ハイテクフィールドディング	1
富士電機株式会社	1
東芝機械株式会社	1

進学先等 5名

東北大学大学院 工学研究科	1
東京大学大学院 工学系研究科	1
東京工業大学大学院 総合理工学研究科	1
筑波大学大学院 システム情報工学研究科	2

応用物質工学専攻 4名

就職先企業 2名

東燃ゼネラル石油株式会社	1
日医工ファーマテック株式会社	1

進学先等 2名

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科	1
立命館大学大学院 生命科学研究科	1



卒業生を招いた就職懇談会

教育後援会から**卒業に際して**

教育後援会会長 鈴木 一 洋

ご卒業を迎えられる学生の皆様、また保護者の皆様、おめでとうございます。

また、学校の先生また職員の皆様には、学業ならびに諸生活においても多大なご指導・ご配慮をいただき、無事に卒業を迎えることができますことを、保護者を代表して心から御礼申し上げます。

さて、今年度から専攻科も文部科学省等の認可のもとに認定専攻科になりました。各高専も自主的に改革に取り組んで、差別化を図っていくなど、時代のニーズに合うように改革していかなければならない時代に入っております。沼津高専は、この課題に対しても、大いなる前進に向けて励まれ、「進化する高専」を掲げ、地域産業や行政、金融界とも連携を密にして、実践的な教育機関と

して着実に進んでいかれるのであらうと期待しております。

これから就職や進学と新しい生活に向かっていかれる卒業生のみなさんは、この5年間の勉学、共同生活の貴重な経験が大いに生かされ、辛いことがあっても乗り越えていけると確信しております。またその時、高専で知り合えた友人とも連絡を取り合い、それを心の拠り所とし、前に進んでいってほしいと思います。現在の、またこれからの生活は、たくさんの人たちの行為により成り立っていることを肝に銘じて、是非、他人の痛みのおわかる人間になってください。

あるアメリカの学者が言っておりましたが、「いかなる学校でも、その習得する知識は、その後の人生において学ぶものに比べたら、一割にも満たない」と。これから、みなさんは多様な経験を積んで、人格形成を絶えず図っていき、素晴らしい人生を歩んでいってほしいです。

それでは最後になりますが、卒業生のみなさんの人生が輝きに満ちていくよう、心からお祈りしております。

同窓会から

同窓会へようこそ (卒業生、学生みんなのネットワーク)

同窓会会長 (M6) 木戸 実

卒業生並びにご父兄の皆様、この度はご卒業おめでとうございます。これからそれぞれの道を歩まれることとなりますが、校訓である「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応えよ」を時に支えとして、いろいろなことへ挑戦されていくことを期待しています。その中に同窓生のネットワーク「同窓会」を人生の幅を広げる大事な一要素として、様々に利用して頂けたらと考えています。

沼津高専同窓会は、1967年3月開設以来、48年間活動してきました。会員数は8,000名を超えています。同窓会の第1の目的は、同窓会員相互の連絡と親睦を図る事です。卒業年度を超えて同窓生の現在の状況や連絡先が常に把握出来るよう同窓会名簿の発行を行っています。今年度の事業としては、新たにこの同窓会名簿を本同窓会のホームページ(以下HP)からアクセスできるよう、その準備を進めています。同窓会名簿は個人情報保護に十分配慮することを方針として機能を実現します。その上でこの名簿が広く利用され皆様にとって大いに役立つこ

とを願っています。

連絡と親睦の具体的な内容ですが、2年に1回同窓会総会を開催しています。その他に各地区の同窓会、部活動等のOBOG会、ローカルな集まり、それぞれでの繋がりを推進していきます。参加人数が一定以上の場合に支援金を支給する支援制度を今年度から開始しました。又その開催の様子を本HPへ投稿していただくなど、バーチャルな手段(HP利用等)でも連絡、親睦の手段を提供していきます。

同窓会の第2の目的は、母校と連携して学生への支援、学校への協力を行っていくことです。具体的には、奨学金の交付、大会等への出場費用の援助、学校記念事業や国際交流基金への協力、卒業生による就職説明会・出前授業・キャリア教育への協力などを実施しています。これらの同窓会事業も、関わった人それぞれに何らかの恩恵が還ってくることを期待して、更なる展開を図っていきます。

8,000人を超えた組織に拡大しながら、また取り巻く環境も大きく変化しながら、その運営方法や同窓会へのあり方などについて、常に同窓会員の皆様と共に考えながら進めていきたいと思えます。そのためには皆様のご理解とご協力(本同窓会HPを常に注目して下さい)をお願い致します。

事務部から

平成27年度前期分授業料の免除および徴収猶予について

経済的理由により授業料納付が困難で、学力優秀と認められる本科4・5年生および専攻科生の、平成27年度前期授業料免除および徴収猶予申請を受け付けています。申請方法は下記のとおりです。申請を希望する場合は学生課学生係へ書類を取りに来てください。

なお、本科1～3年生は原則として、「就学支援金」制度により助成が行われます。

記

- | | |
|-------------|--|
| 申請方法 | 授業料免除申請書または授業料徴収猶予申請書(所定様式)を学生係へ提出する。 |
| 提出期限 | 平成27年3月31日(火)
※所定の様式がありますので、申請を希望する場合は、学生係へ書類を取りに来てください。 |
| | 申請者には、後日学生係より、住民票、所得証明書等の必要書類提出について案内いたします。
※必要書類は、必ず学生係からの案内を確認の上、ご準備願います。 |
| 注意事項 | 1 平成26年10月1日以降に、懲戒処分(停学以上の処分)を受けた学生は免除の対象となりません。
2 ご不明な点がございましたら、学生課学生係(055-926-5734)にお問い合わせください。 |

沼津工業高等専門学校意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、その中で、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。

このため、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。

皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等は行いますが、原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。(ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます)
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。



1 日体験入学

1 年生 ダーツロボット競技会



2 年生 ミニ研究発表会

高専祭

行事予定表

平成27年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
1年生合宿研修

5月 防災訓練
後援会総会・保護者懇談会
寮祭
スポーツ大会・学生総会

6月 前期中間試験
平成27年度専攻科入学試験

7月 東海地区高専体育大会
1～4年生保護者懇談会
前期末試験

8月 一日体験入学
全国高専体育大会
平成27年度編入学試験

9月 寮生リーダー研修
2年生ミニ研究発表会

10月 東海北陸地区ロボコン大会
4年生工場見学
中学生のための体験授業
体育祭・学生総会
2年生特別研修

11月 高専祭・体験授業
文化講演会
東海北陸地区英語スピーチコンテスト
東海地区高専体育大会
授業参観・学科説明会
ロボコン全国大会
後期中間試験

12月 テクノフォーラム
3年生課外教育特別講演
4年生工学系数学統一試験
留学生交流会

平成28年

1月 3年生学習到達度試験
3年生合宿研修
平成28年度推薦選抜入試

2月 学年末試験
平成28年度学力選抜入試
5年生卒業研究発表

3月 寮生リーダー研修
卒業式・修了式



工場実習



D4 MIRS競技会



高専祭



文化講演会

そ の 他

遠藤さんのこと

名誉教授 勝 呂 譲

沼津高専の理容師遠藤一雄さんが亡くなりました。11月25日の夜御自宅で不調を訴えられ、深更日付が変わってから救急医療センターで息を引きとられました。急性大動脈解離。享年67歳でした。

遠藤さん、どうしたんだよー。きのう帰りがけにちらっと見たときには灯りがついてた。暮に向かって忙しい日が続くんだろうなと思っていた。廊下で大河さんから聞いた時は耳を疑った。確かにこの齢になると散髪しながら交す話題も病気や健康のことが多く、御自身の体の様子もいろいろ聞かせてもらっていたが、このところ快調そのものだったじゃん。先日教えてもらった健康法は足の裏に巻く絆創膏で膝への衝撃を減らすというものだった。

私が留学から戻ったら理容室ができていた。図書館の地下の隅だった。初めて刈ってもらった時お互い探り合うような感じで気まずかった。あれから40年か。先輩や同世代の教職員が一人去り二人去りして、しつこく残る私には、遠藤さんが最も長いつき合いの高専関係者、というか、今では最も心の許せる友人となっていた。この椅子に座ったあの人のこと、この人のことをよく話したっけなあ。御定年後も散髪に通っていらした小松先生、野中先生（奥様運転のベンツ！）一大橋先生、渋谷先生は故人となられたーには時々あそこでぼったり出くわしたものだ。最近では学生がこないから新しいヘアスタイルなんかは勉強しないんだと言っていた。事実客のほとんどは中年以上のおじさんで、皆同じ髪型だった。心配する私に、自分と家族の人生設計はもうできていて（もうすぐ孫が生まれるんだ）、余生はここでポツポツ。一日に〇人の頭を刈れば飯を喰っていけるんだ、と。図書

館の頃は一部学生のたむろする息抜きの場所だった。寮室で佳境に入った麻雀が消灯でジャラジャラできなくなった時には、遠藤さんのお宅に雀卓を移して続きのパイをつまんでいた、と大須賀がさっき告白した。非常勤となって人事に疎くなった私には理容室が大事な情報源でもありました。誰それ先生が辞められるとか誰さんが異動とか。卒業生の話題も尽きなかったなー。勝間田、本郷、エーテツ。

どうせならキリ良くあと数ヶ月。いやいつまでもがんばって、多分今後も時折顔を見せたらどう私に、学校の最新情報を教え続けてほしかった。

私が人生のピンチに陥った時研究室まで来て慰め励ましてくれた。多趣味博学の人でいろんな世間のことを教わったなー。ミステリーバスツアーの面白さとか。くれ好きでいろいろ貰った。籠、本、CD。BBQのセット。宗教についても詳しかったが御自身は無宗教の家族葬。「理容師免許証」の額と花だけの祭壇もどきがいつそさわやかだった。墓はさっぱりとした富士霊園。

遠藤さん、ありがとうございます。そしてさようなら。しかし暮から伸ばしっ放しの髪、どこの床屋へ行ったらいいんだろう？



勝呂先生（左）と遠藤さん（右）

